

男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書 概要版

(令和元年度)

◆ 調査の目的

魚沼市人権推進・男女共同参画に関する意識調査を行い、魚沼市第4次男女共同参画推進計画のための基礎資料として実施しました。

◆ 調査の方法

(1) 調査対象

令和元年9月30日現在、魚沼市住民基本台帳に登録されている平成16年4月1日以前に生まれた市民1,000人を無造作に抽出し、実施しました。

(2) 抽出方法

10歳代(15歳～19歳)、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代、80歳代、90歳代以上の区分で、地域別に、人口構成、男女で按分して行いました。

(3) 調査方法

調査票を郵送により発送し、郵送による回収を行いました。

(4) 調査期間

令和元年11月8日～令和元年12月2日

◆ 回収結果

(1) 配布数：1,000件

(2) 回収数：451件

(3) 回収率：45.1%

◆ この報告書の見方

(1) 百分率(%)の表示は、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがあります。また、複数回答(2つ以上の回答)では、合計が100%を超える場合があります。

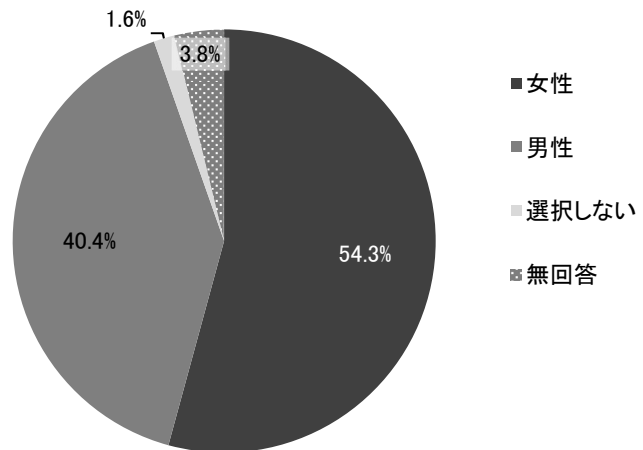
(2) 質問に対する回答者の総数を示す「n(number of casesの略)」は、nの値が451以外の場合のみ表示しました。

(3) グラフ中で経年比較を行っている設問は、平成27年5月に実施された「第3次魚沼市男女共同参画推進計画策定に向けた市民意識調査」の結果との比較になります。

◆ 回答者の属性

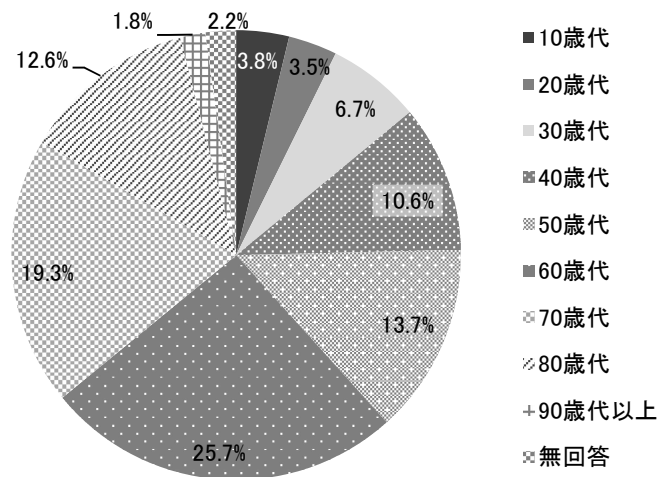
(1) 性別

選択肢	人数	割合 (%)
1. 女性	245	54.3%
2. 男性	182	40.4%
3. 選択しない	7	1.6%
4. 無回答	17	3.8%



(2) 年齢

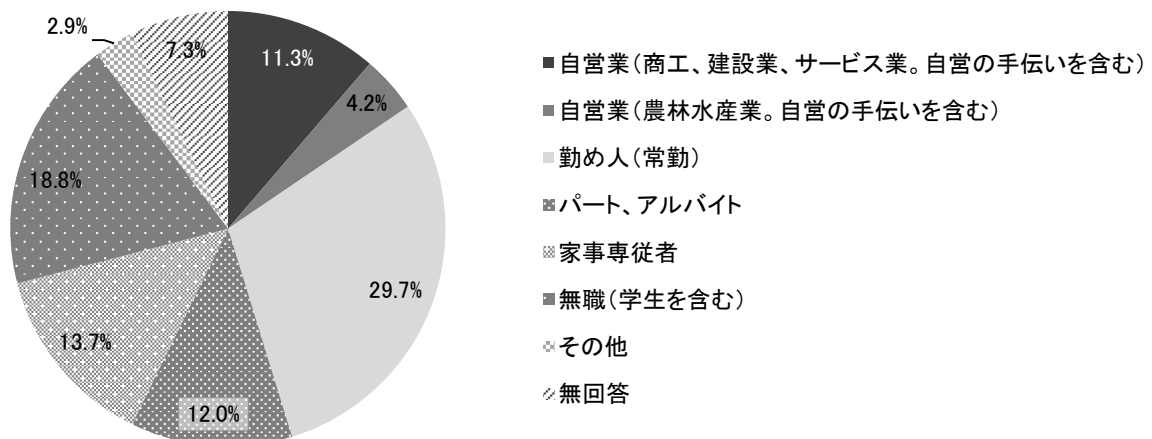
選択肢	人数	割合 (%)
1. 10歳代	17	3.8%
2. 20歳代	16	3.5%
3. 30歳代	30	6.7%
4. 40歳代	48	10.6%
5. 50歳代	62	13.7%
6. 60歳代	116	25.7%
7. 70歳代	87	19.3%
8. 80歳代	57	12.6%
9. 90歳代以上	8	1.8%
10. 無回答	10	2.2%



区分		回答者数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	以上90歳代	無回答
性別	女性	245	2.9%	4.5%	10.2%	11.0%	11.0%	24.1%	18.8%	13.5%	2.4%	1.6%
	男性	182	4.9%	2.2%	1.6%	9.9%	18.1%	29.7%	19.8%	11.5%	1.1%	1.1%
	選択しない	7	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	17	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	17.6%	23.5%	17.6%	0.0%	23.5%

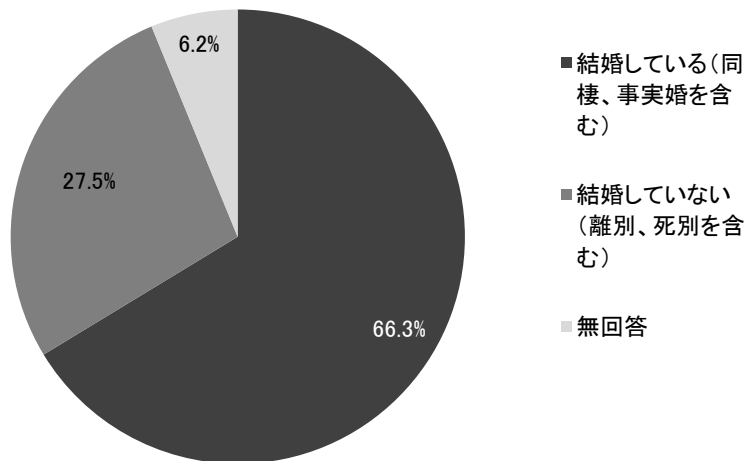
(3) 就労状況

「勤め人(常勤)」が最も多く 134 人 (29.7%)、次いで「無職(学生を含む)」が 85 人 (18.8%) となりました。



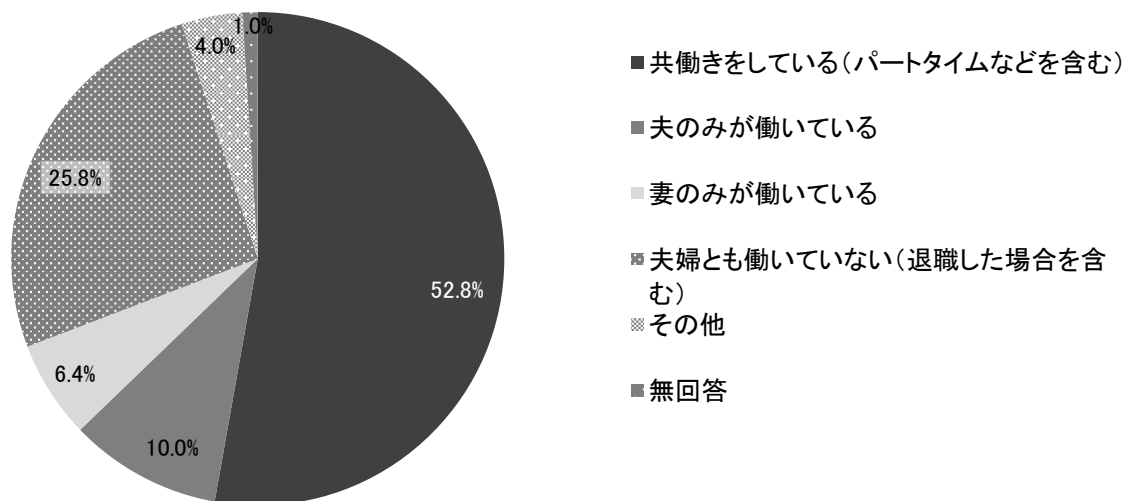
(4) 婚姻状況

「結婚している」が299人(66.3%)と過半数を占めました。



(5) 夫婦の就労状況

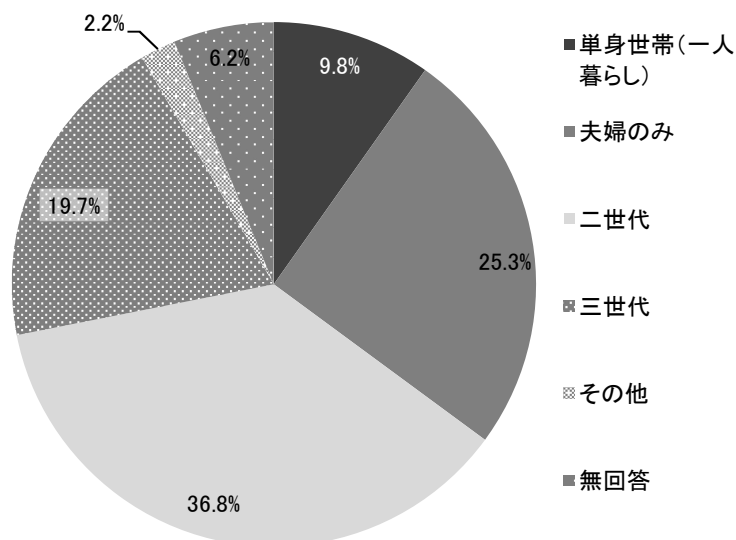
「共働きをしている」が最も多く158人(52.8%)、次いで「夫婦とも働いていない」が77人(25.8%)となりました。



(6) 家族構成

家族構成は、「二世帯」が最も多く166人(36.8%)、次いで「夫婦のみ」が114人(25.3%)となりました。

前回調査と比較すると、「単身世帯」「夫婦のみ」が増加しています。その一方、「三世帯」が減少しています。



◆ 調査結果

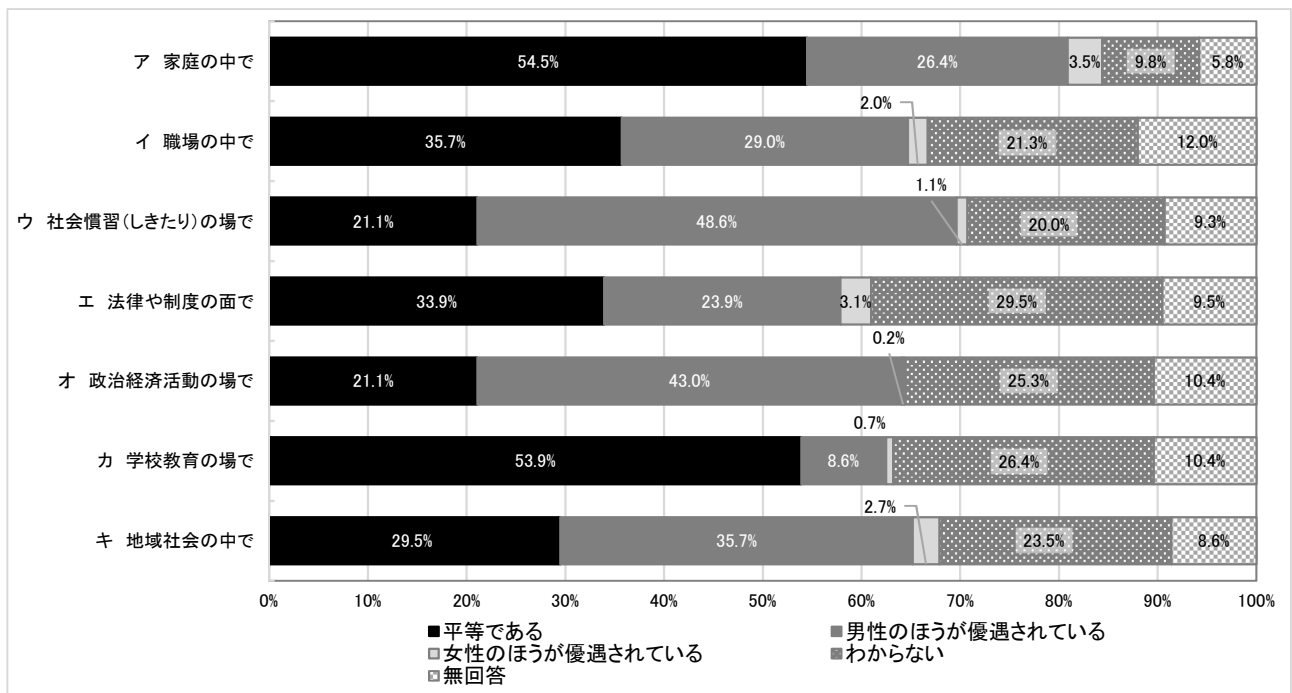
男女の地位の平等についてお聞きします。

問1 男女の地位の平等について、どのように思いますか？

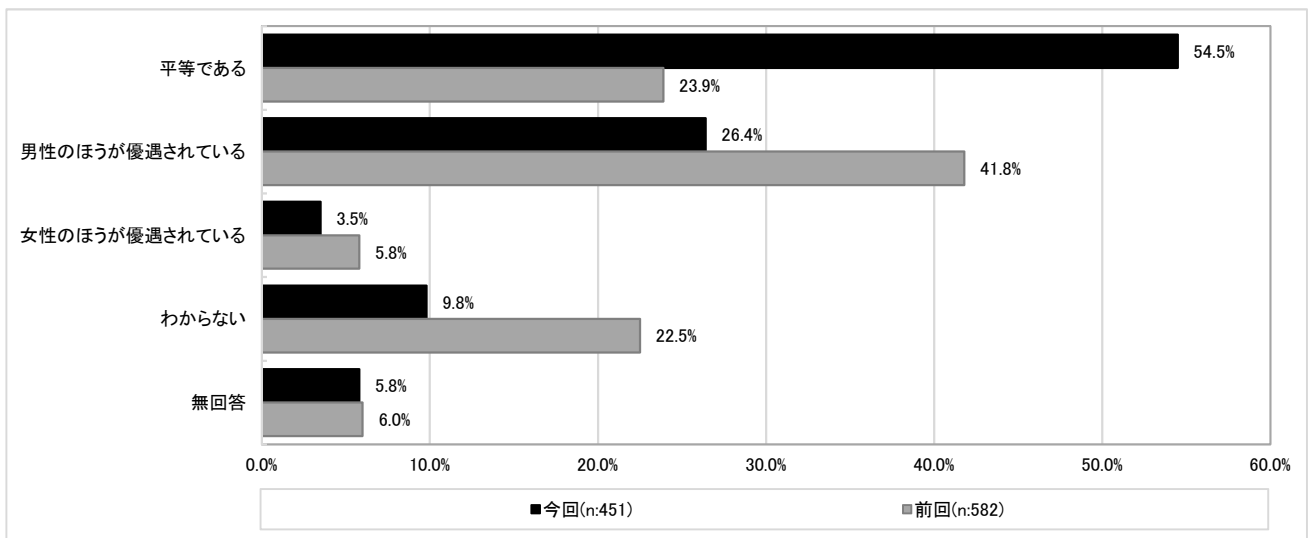
「平等である」が最も高かったのは「家庭の中で」(54.5%)で、次いで「学校教育の場で」(53.9%)、「職場の中で」(35.7%)でした。また、「社会慣習(しきたり)の場で」(21.1%)、「政治経済活動の場で」(21.1%)は低い結果となりました。

「男性のほうが優遇されている」が最も高かったのは、「社会慣習(しきたり)の場で」(48.6%)で、次いで「政治経済活動の場で」(43.0%)、「地域社会の中で」(35.7%)でした。

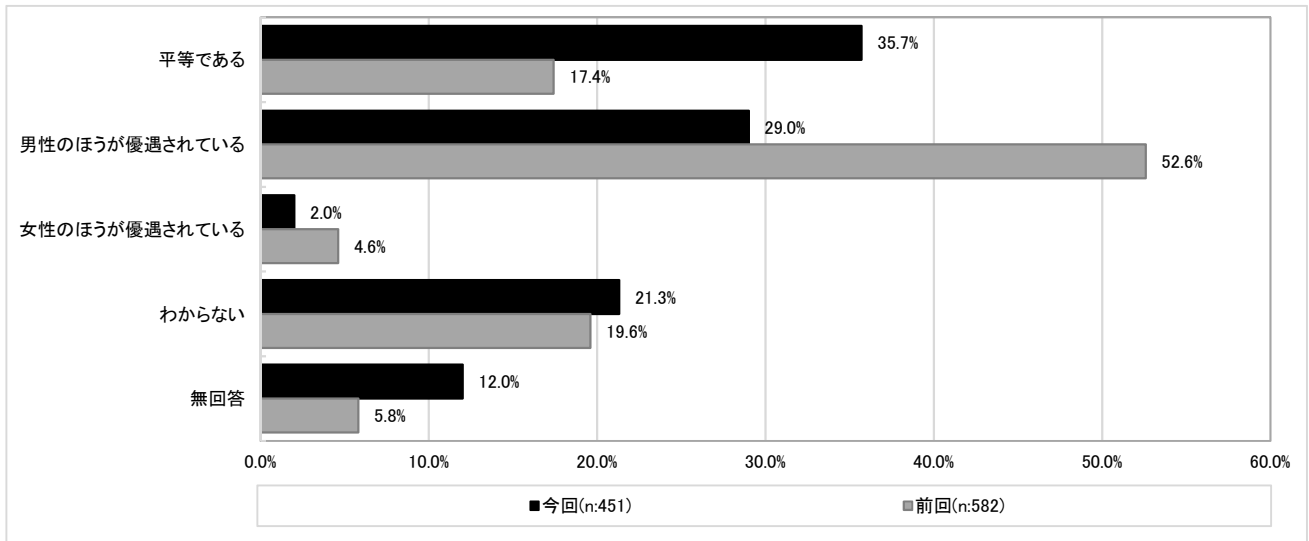
前回調査と比較すると、7項目中5項目で「平等である」が増加しました。



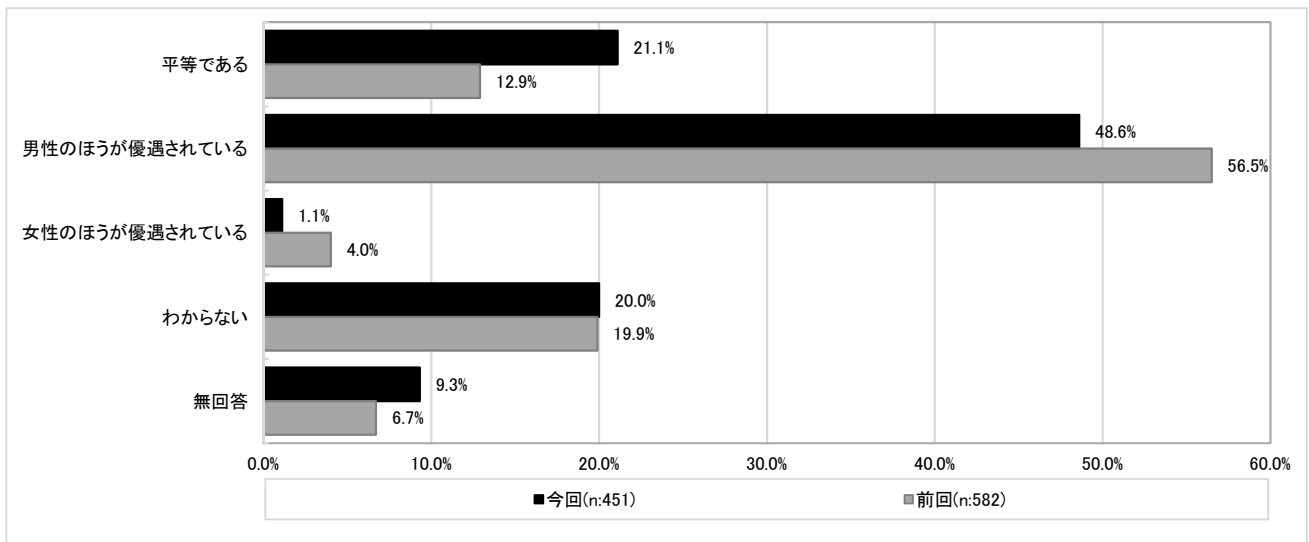
ア 家庭の中で



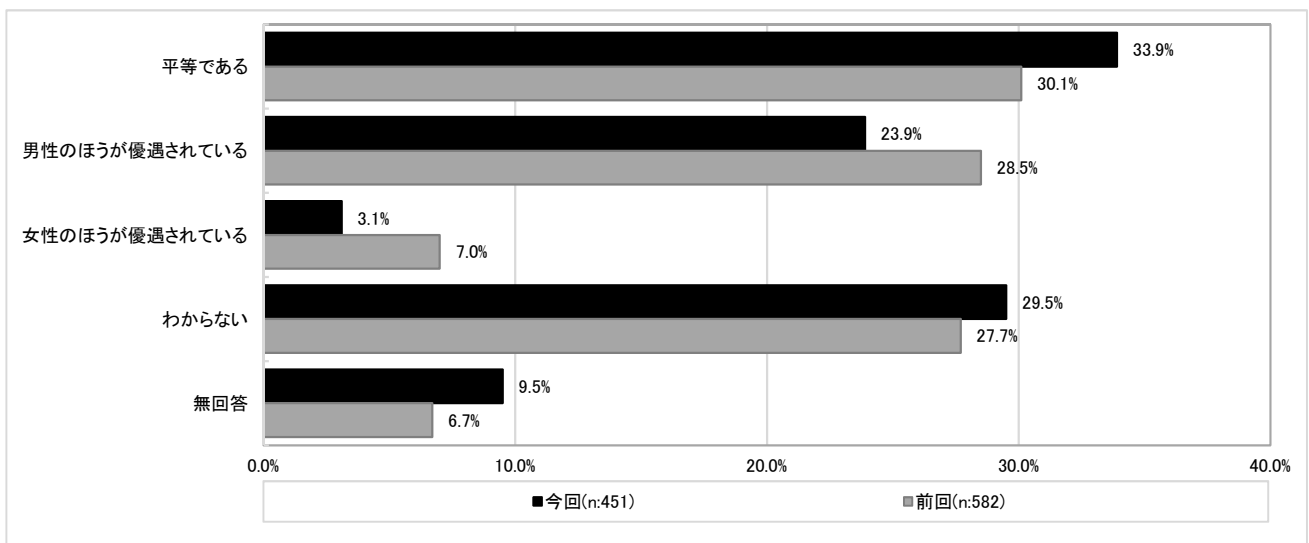
イ 職場の中で



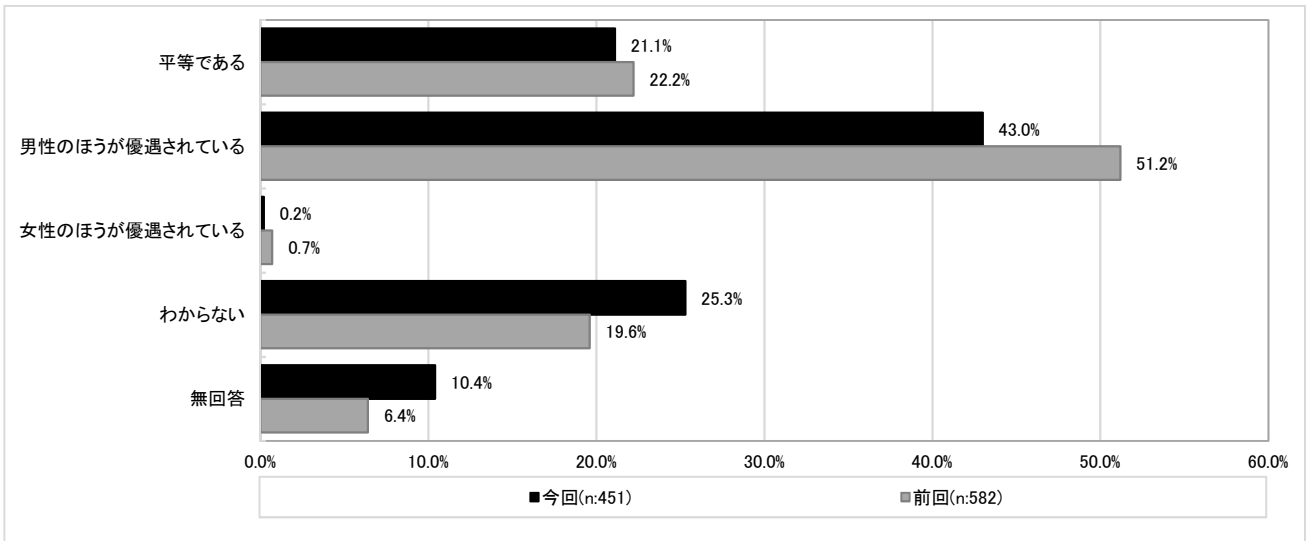
ウ 社会慣習（しきたり）の場で



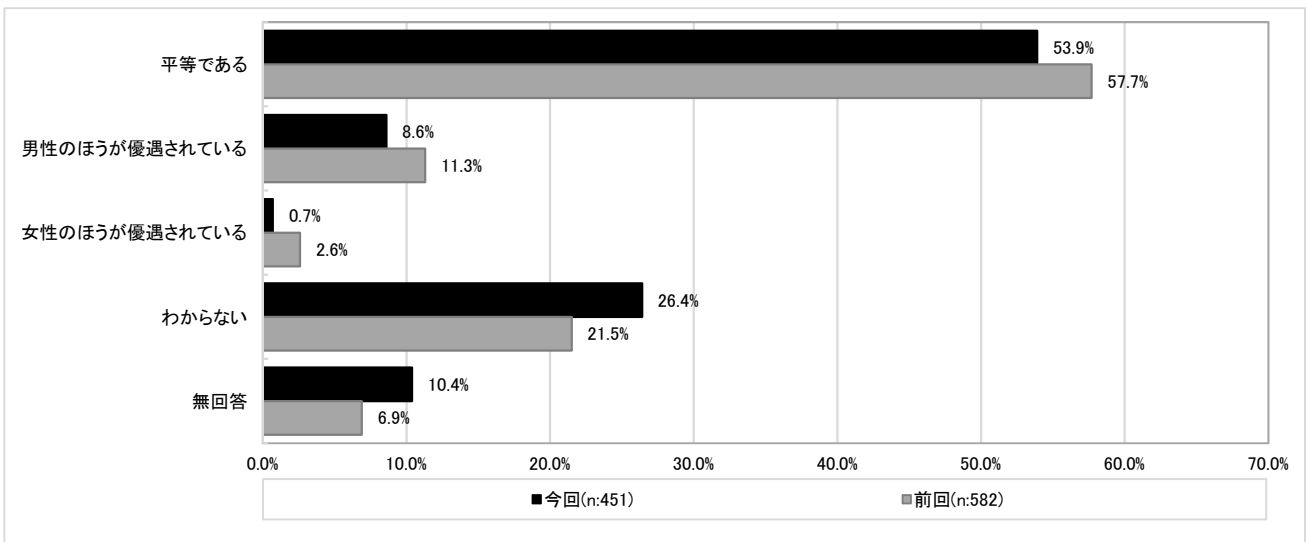
エ 法律や制度の面で



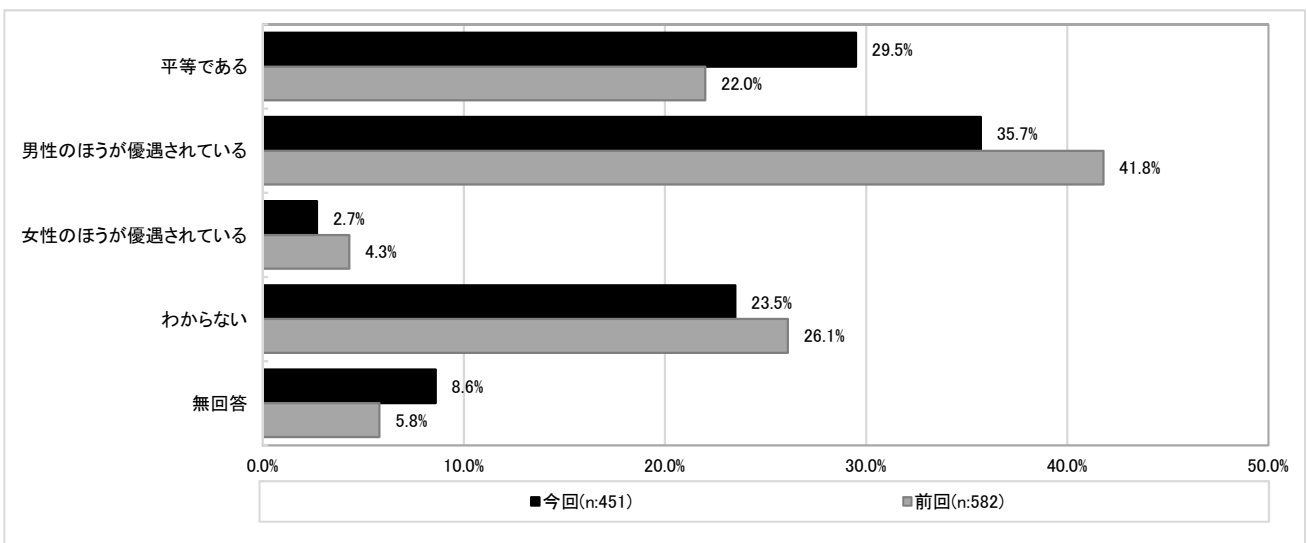
オ 政治経済活動の場で



カ 学校教育の場で



キ 地域社会の中で

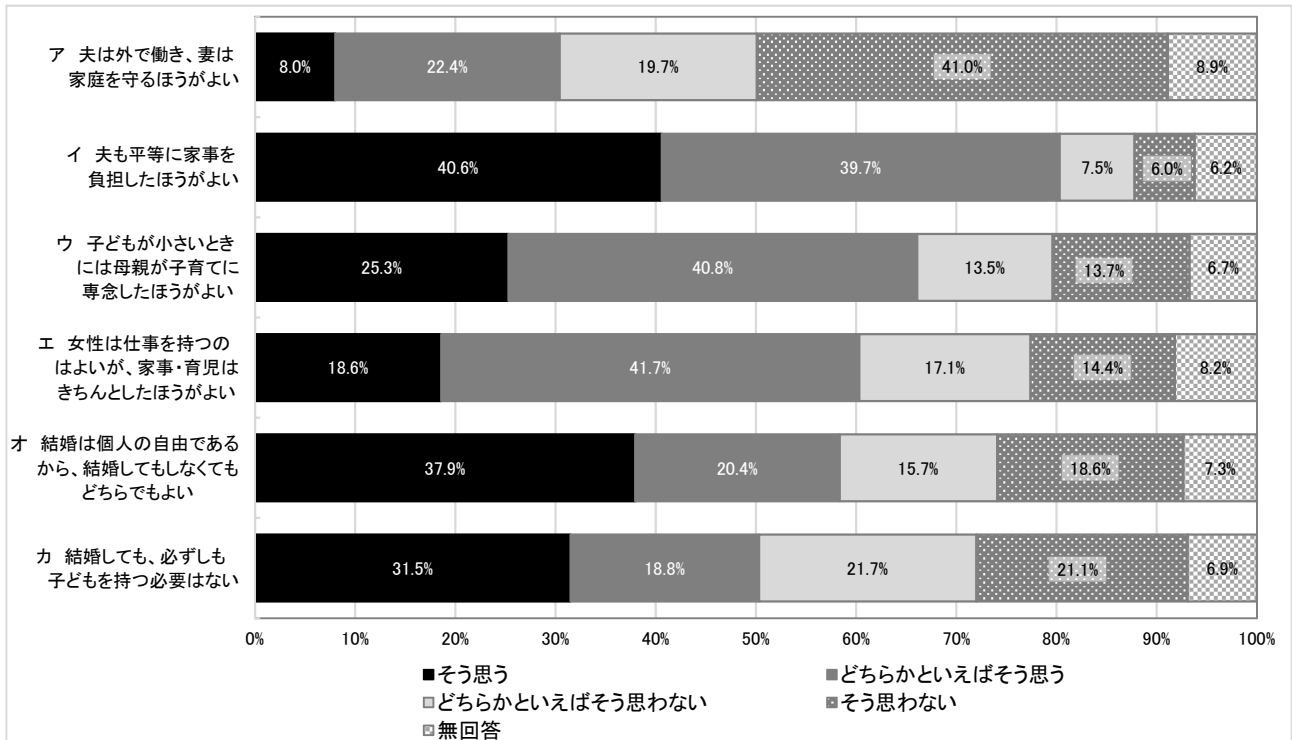


男女の結婚、家庭、人生観などについてお聞きします。

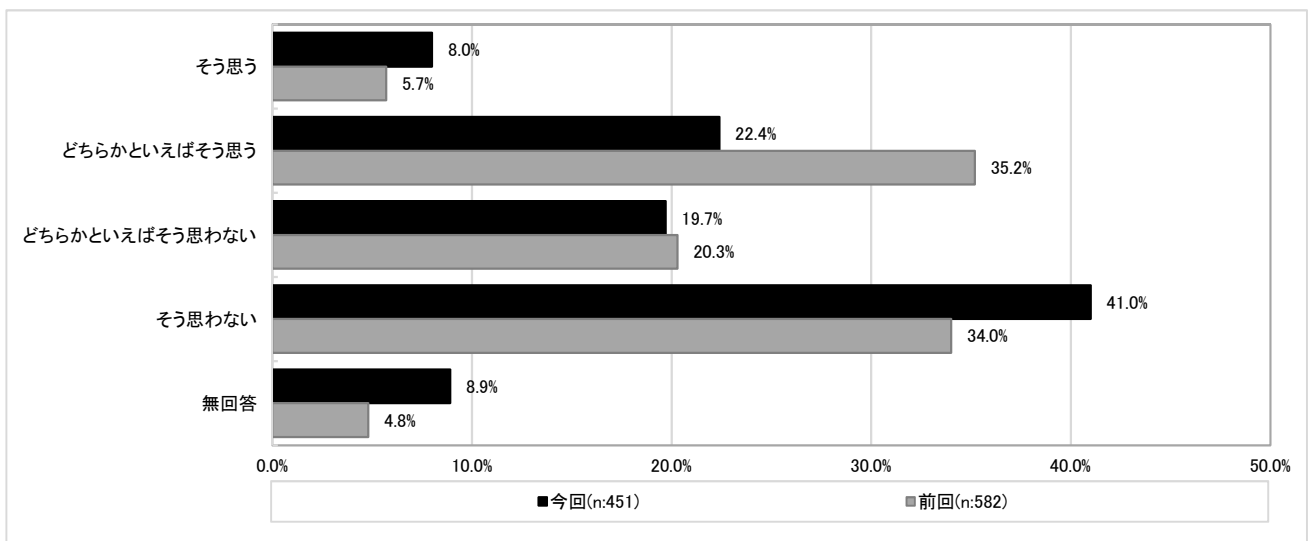
問2 あなたの家庭や結婚に対する考え方について、どのように思いますか？

「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計が最も高かったのは、「夫も平等に家事を負担したほうがよい」(80.3%)で、次いで「子どもが小さいときには母親が子育てに専念したほうがよい」(66.1%)でした。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい」(30.4%)は6項目中で一番低い結果でした。

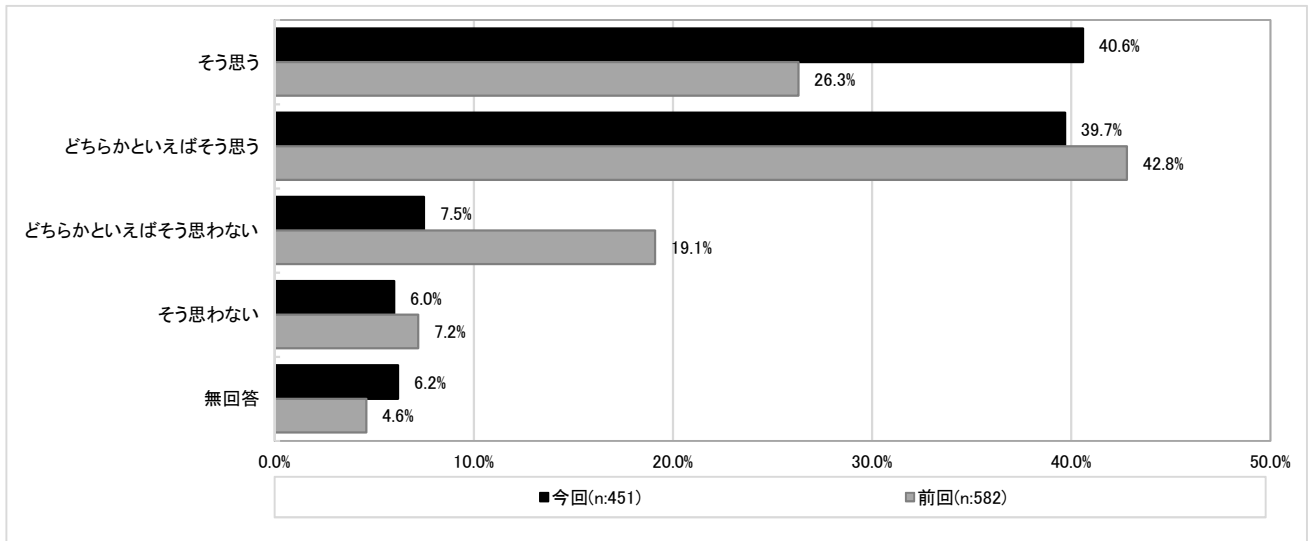
前回調査と比較すると、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計では、「夫も平等に家事を負担したほうがよい」(11.2ポイント)、「子どもが小さいときには母親が子育てに専念したほうがよい」(3.4ポイント)、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(6.9ポイント)、「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(3.7ポイント)が増加しました。



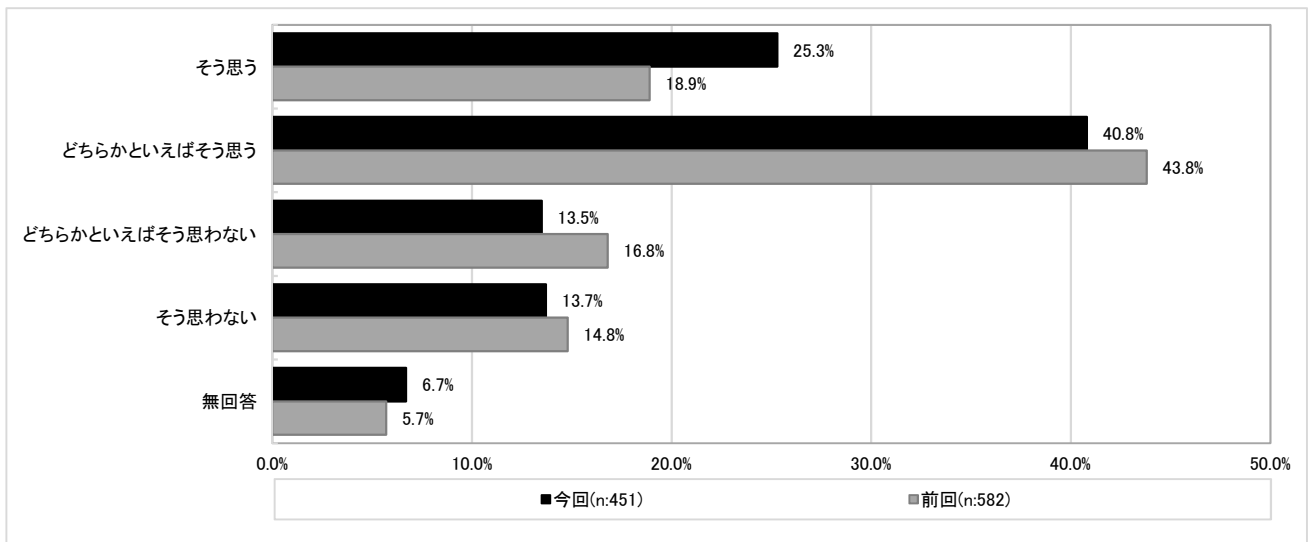
ア 夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい



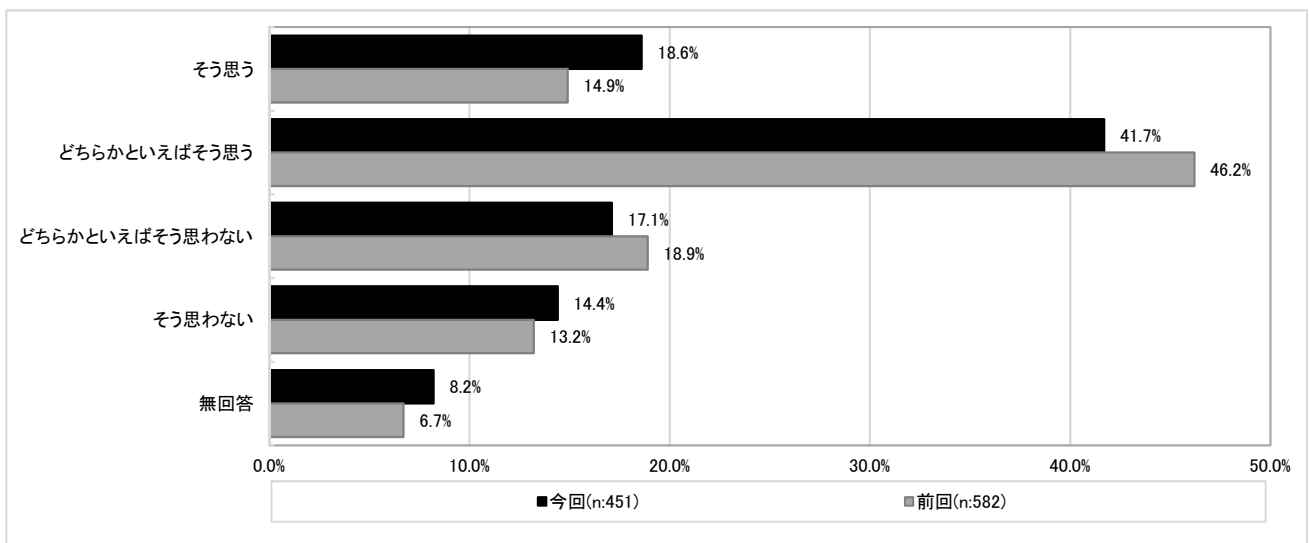
イ 夫も平等に家事を負担したほうがよい



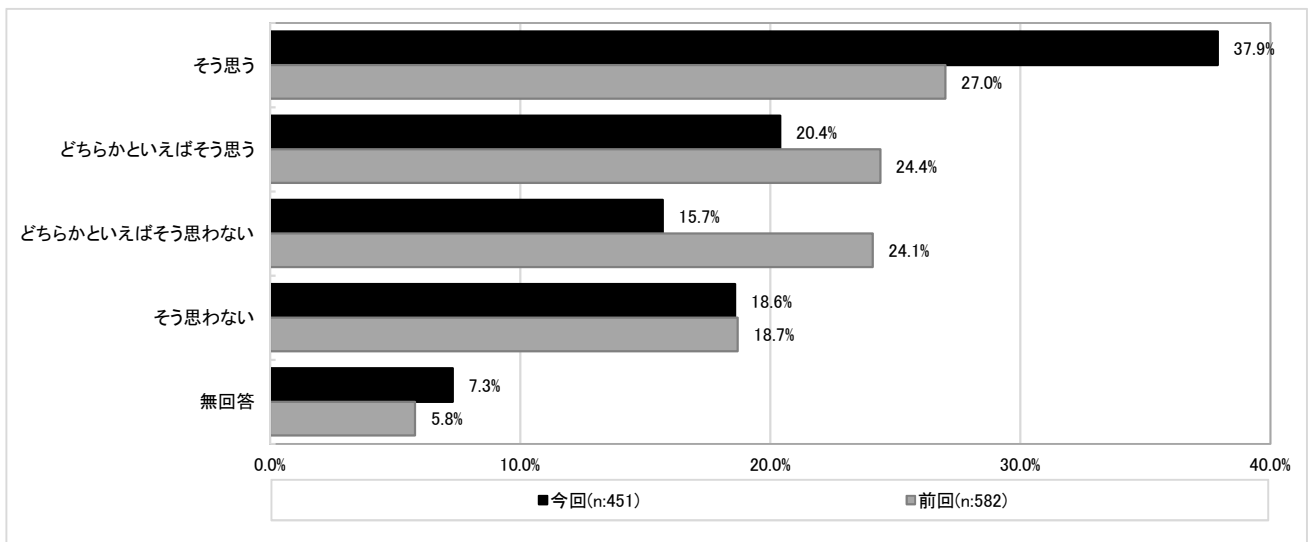
ウ 子どもが小さいときには母親が子育てに専念したほうがよい



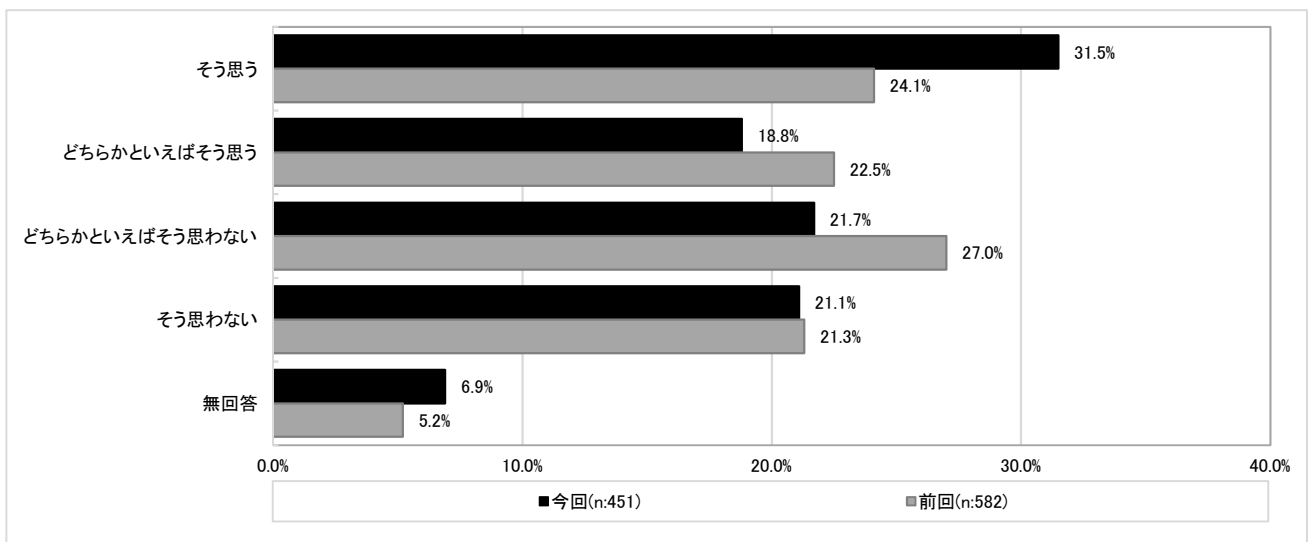
エ 女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとしたほうがよい



オ 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



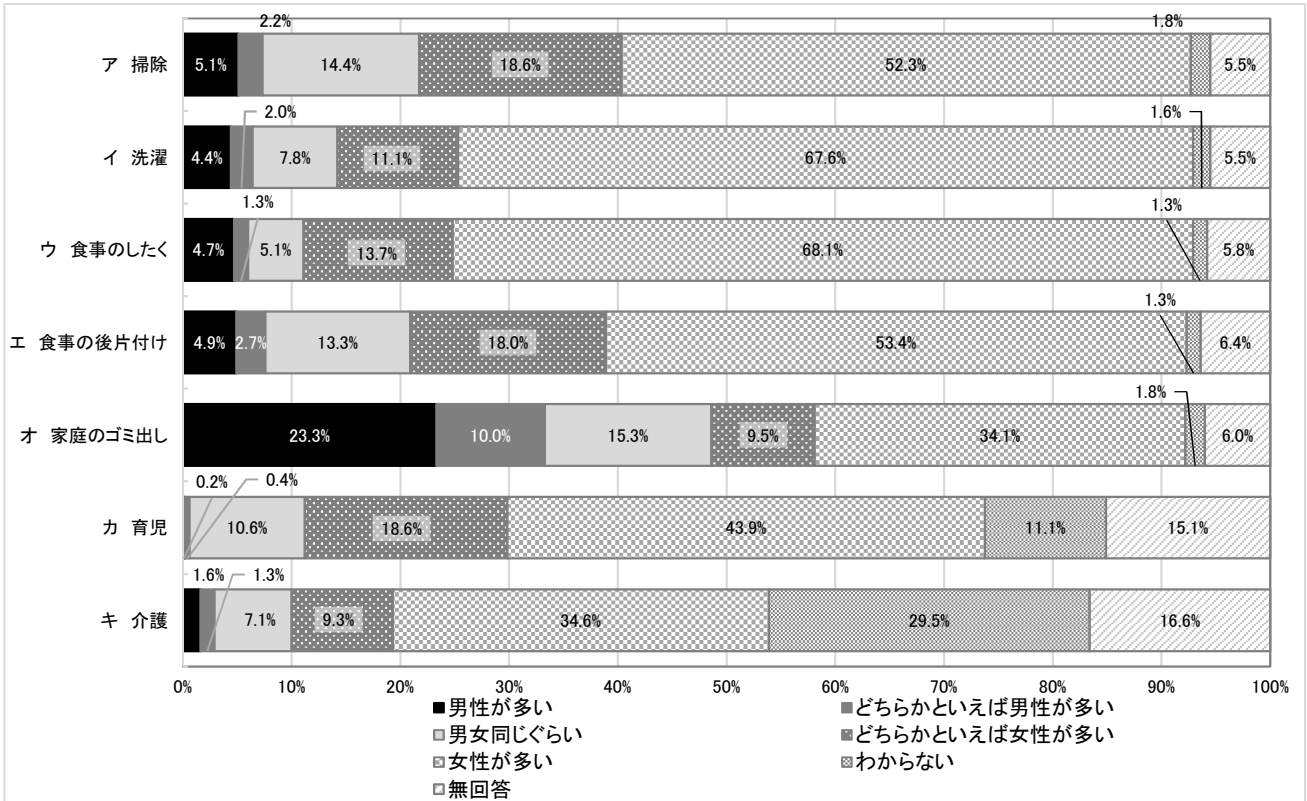
カ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



問3 あなたの家庭では、次のア～キの家事等を主にどなたが担当していますか？

家庭生活における役割分担の中で、「食事のしたく」は女性が担う割合が最も高く、「どちらかといえば女性が多い」及び「女性が多い」の合計は81.8%になりました。

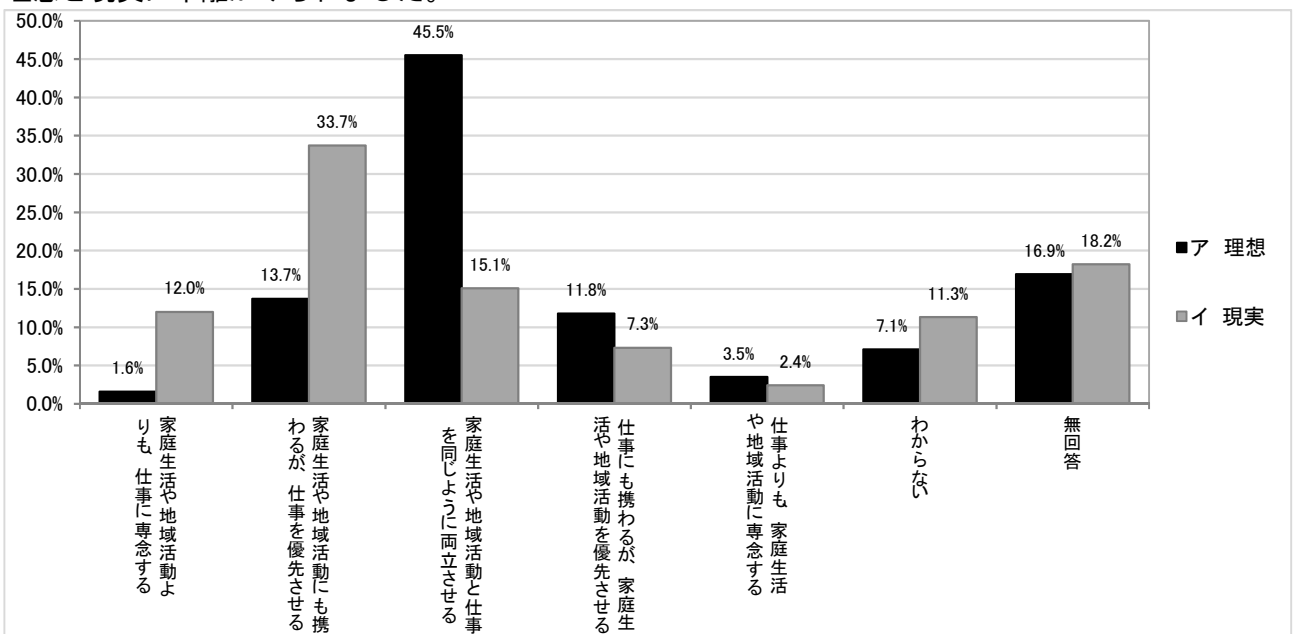
「家庭のゴミ出し」では、「男性が多い」及び「どちらかといえば男性が多い」の合計が33.3%となりましたが、それでも女性が担う割合43.6%とは10.3ポイントの差があり、すべての項目で男性が担う割合は低い結果となりました。



問4 仕事と家庭生活や地域活動のバランスについて、あなたの「理想」に一番近いものはどれですか？また、「現実」に一番近いものはどれですか？

「理想」（無回答除く）では、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」（45.5%）が最も高く、次いで「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」（13.7%）でした。

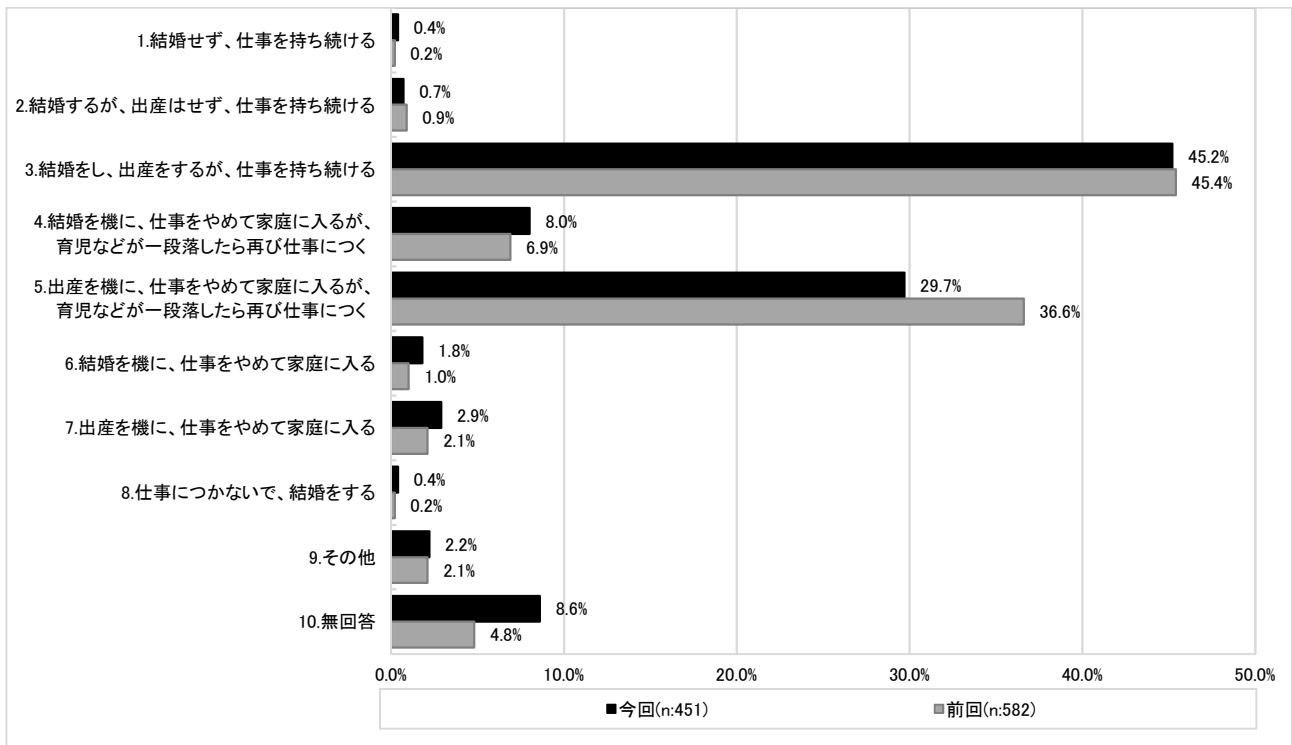
「現実」では、「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」（33.7%）が最も高くなり、理想と現実乖離がみられました。



男女の職業生活についてお聞きします。

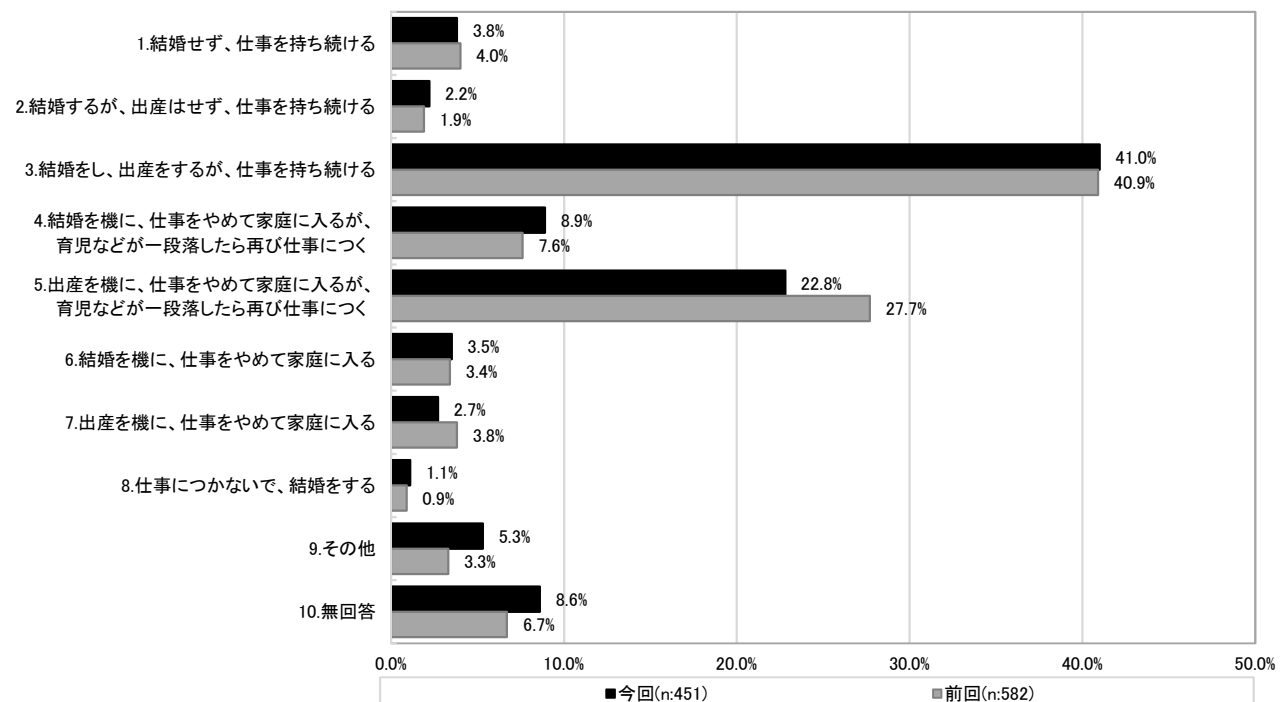
問5 あなたは、女性はどのような働き方をしていくのが理想だと思いますか？

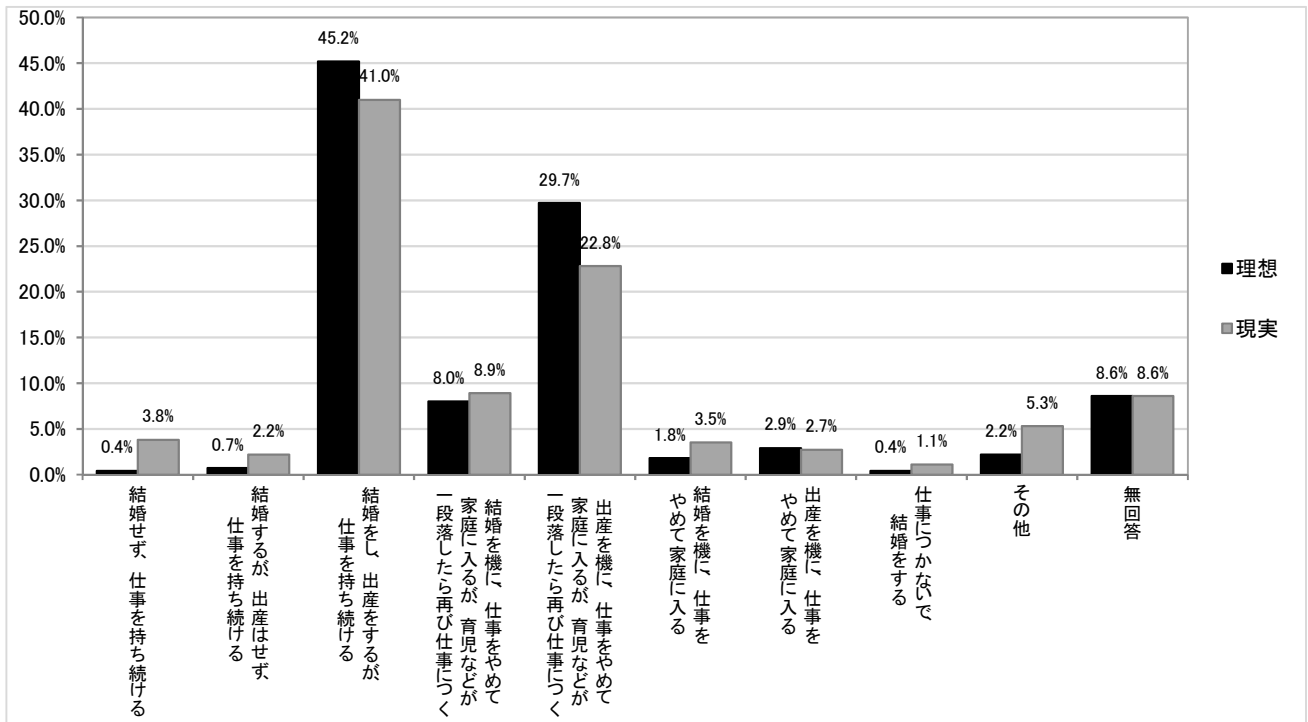
「結婚をし、出産をするが、仕事を継続する」(45.2%)が最も高く、次いで、「出産を機に、仕事をやめて家庭に入るが、育児などが一段落したら再び仕事につく」(29.7%)でした。



問6 現実には、どのようなライフスタイルになりそうですか？

「結婚をし、出産をするが、仕事を継続する」(41.0%)が最も高く、次いで、「出産を機に、仕事をやめて家庭に入るが、育児などが一段落したら再び仕事につく」(22.8%)でした。なお、理想と現実には極端な乖離はみられませんでした。

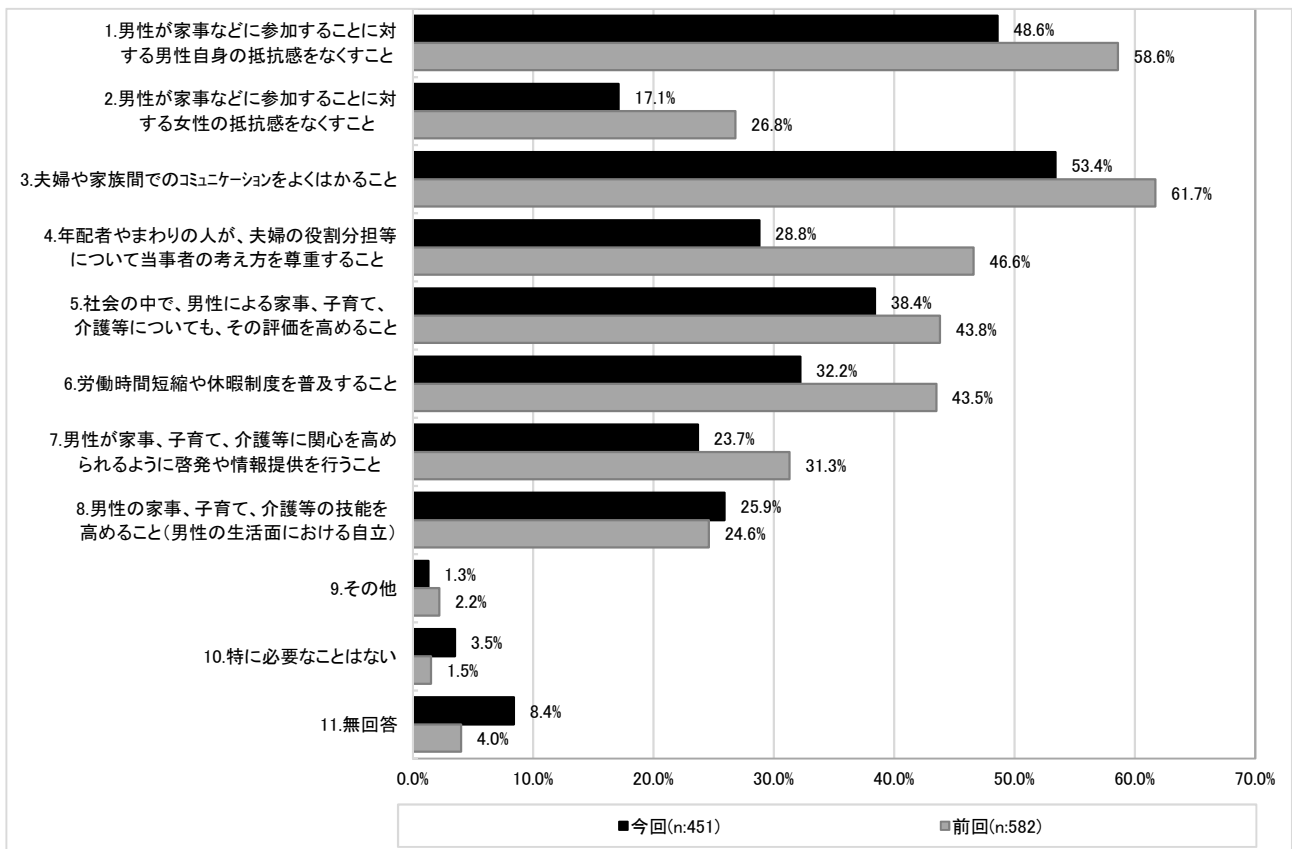




問7 今後、男女がともに家事、子育て、介護等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか？

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(53.4%)が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(48.6%)でした。

前回調査と比較すると、「男性の家事、子育て、介護等の技能を高めること」(1.3ポイント)、「特に必要なことはない」(2.0ポイント)は増加し、それ以外の項目は減少しました。

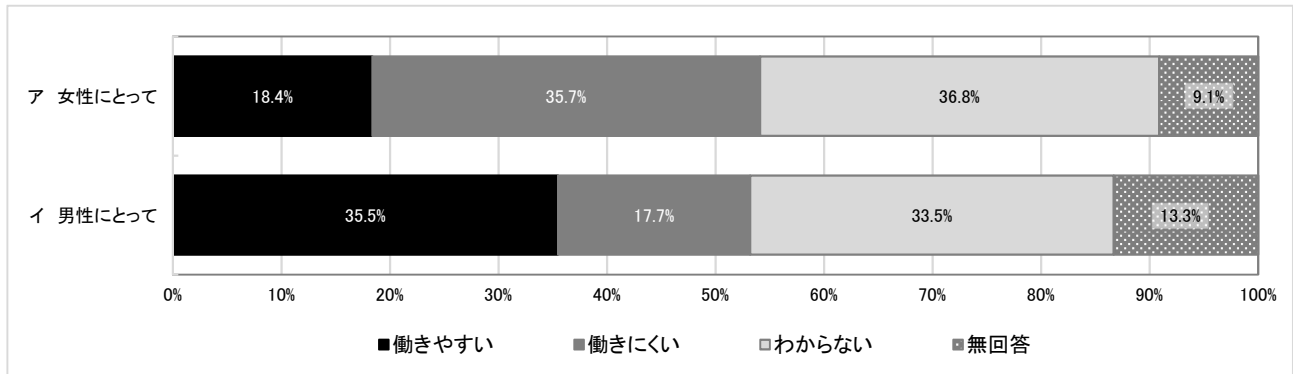


問8 あなたは、現在の社会は「女性」及び「男性」にとって働きやすい環境にあると思いますか？

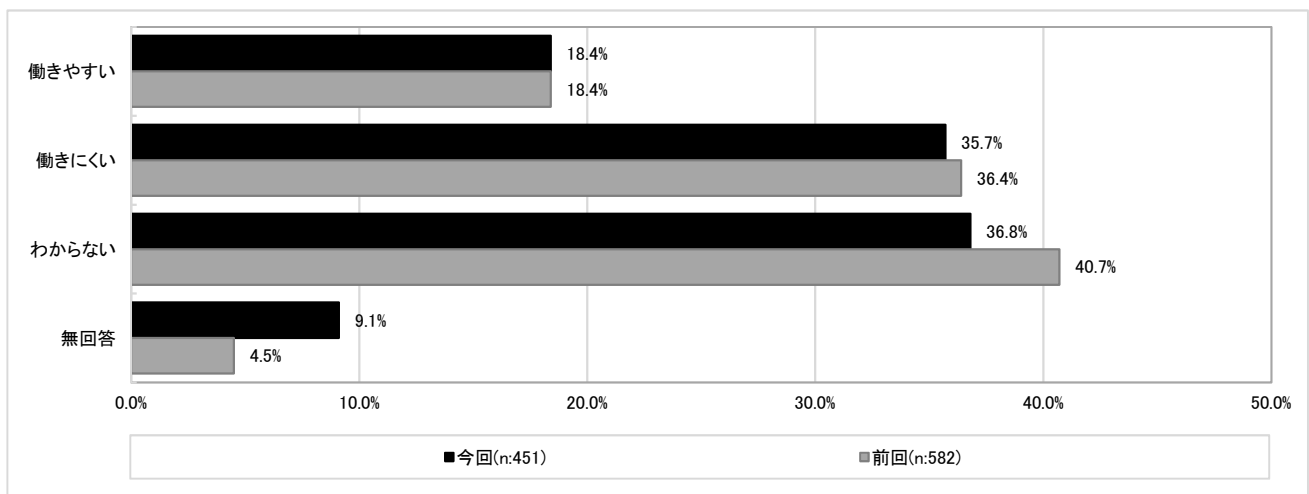
男性にとっては、「働きやすい」が35.5%となり、「働きにくい」17.7%を大きく上回りました。

一方で、女性にとっては、「働きにくい」が35.7%となり、「働きやすい」18.4%を大きく上回り、「男性にとって」と逆の結果となりました。

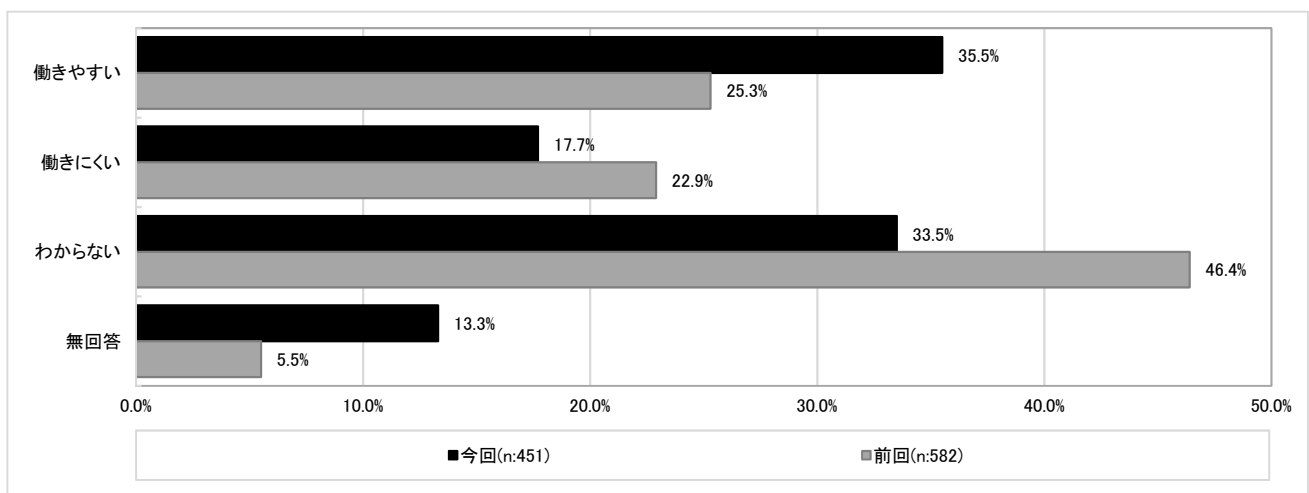
前回調査と比較すると、女性の「働きやすい」はあまり変化がみられませんでした。男性は、「働きやすい」が10.2ポイント増加しました。



ア 女性にとって



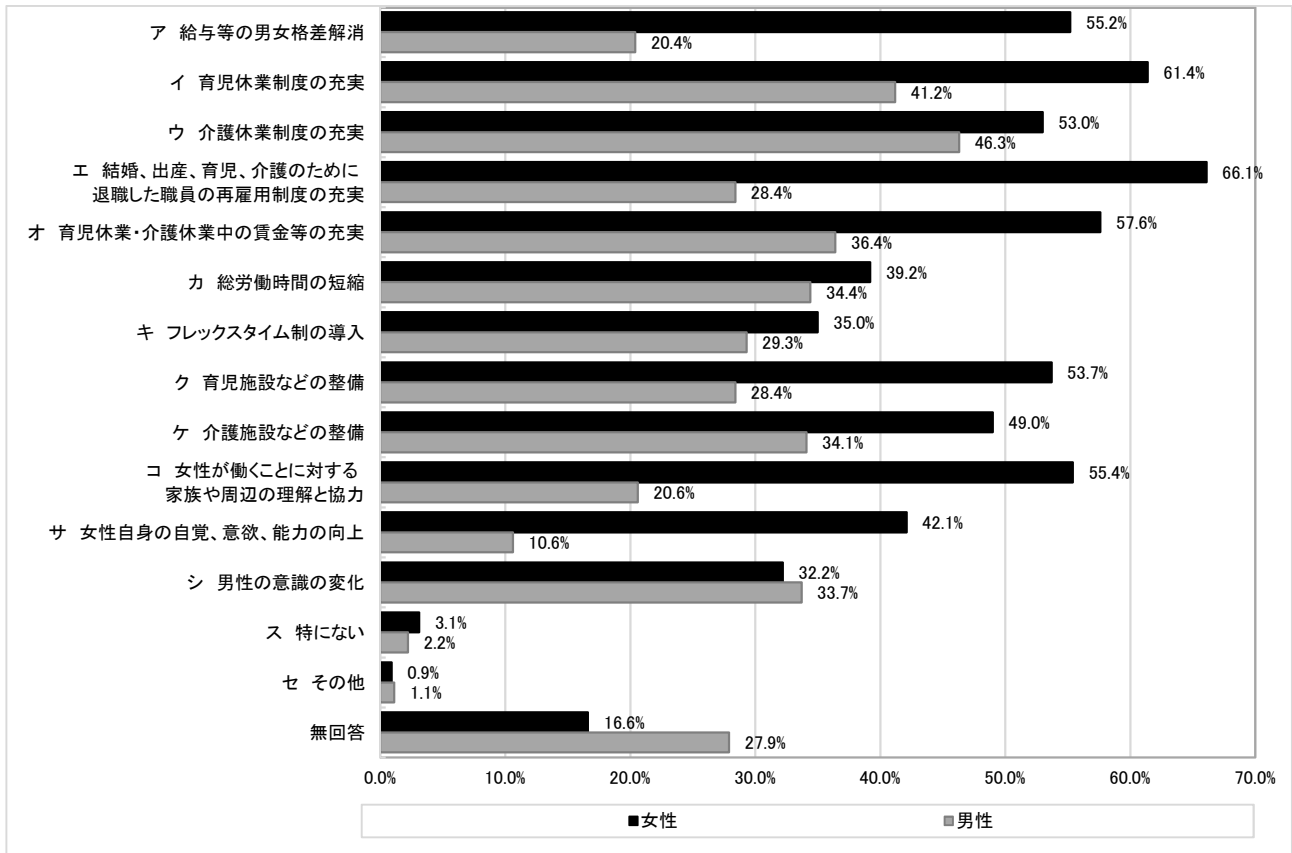
イ 男性にとって



問9 働きやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか？

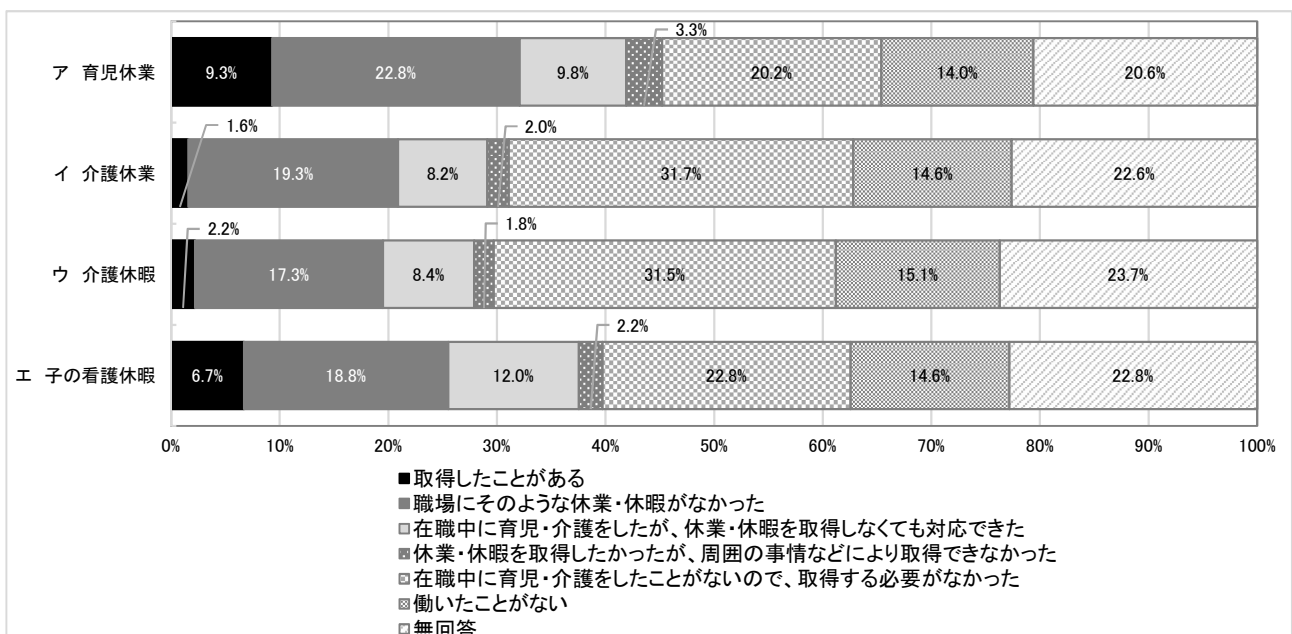
「女性にとって働きやすい環境」については、「結婚、出産、育児、介護のために退職した職員の再雇用制度の充実」(66.1%)が最も高く、次いで「育児休業制度の充実」(61.4%)でした。

「男性にとって働きやすい環境」については、「介護休業制度の充実」(46.3%)が最も高く、次いで「育児休業制度の充実」(41.2%)でした。



問10 あなたは、育児・介護・看護のために休業や休暇を取得したことがありますか？

育児・介護・看護の休業や休暇の取得状況は、すべての項目において「職場にそのような休業・休暇がなかった」及び「在職中に育児・介護をしたことがないので、取得する必要がなかった」が高い傾向にあり、「取得したことがある」は低い結果となりました。

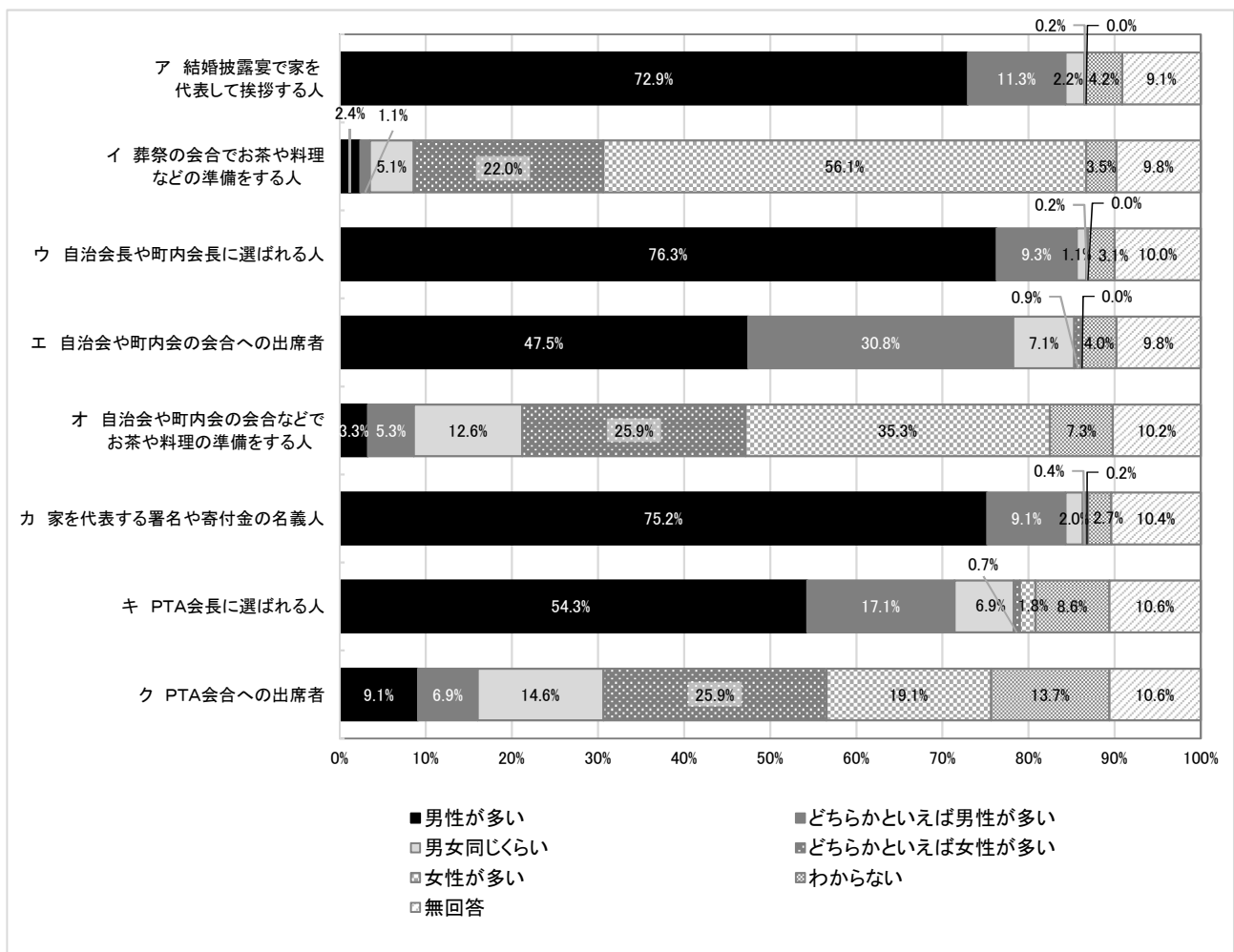


慣行・地域活動などについてお聞きします。

問11 次の慣行・地域活動などにおいて、あなたがお住まいの地域では、男性と女性のどちらが担当することが多いですか？

男性が担当することが多い項目（「男性が多い」及び「どちらかといえば男性が多い」の合計）では、「自治会長や町内会長に選ばれる人」（85.6%）、「家を代表する署名や寄付金の名義人」（84.3%）、及び「結婚披露宴で家を代表して挨拶する人」（84.2%）という結果となりました。

女性が担当することが多い項目（「女性が多い」及び「どちらかといえば女性が多い」の合計）では、「葬祭の会合でお茶や料理などの準備をする人」（78.1%）、「自治会や町内会の会合などでお茶や料理の準備をする人」（61.2%）、及び「PTA会合への出席者」（45.0%）という結果となりました。

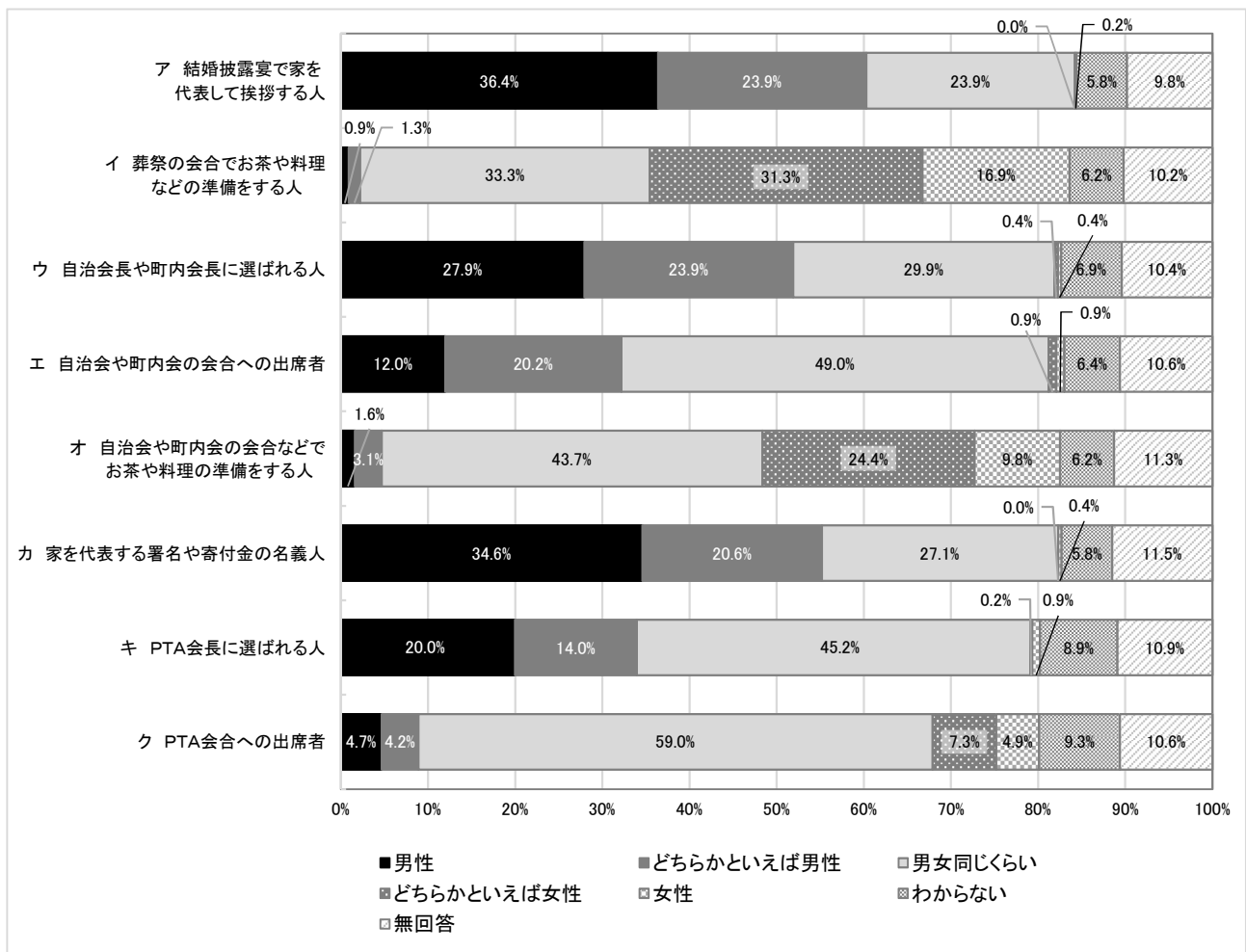


問 12 それでは、次の慣行・地域活動などにおいて、男性と女性のどちらが担当した方がよいと思いますか？

男性が担当した方がよいと思う項目（「男性」及び「どちらかといえば男性」の合計）では、「結婚披露宴で家を代表して挨拶する人」（60.3%）が最も高く、次いで「家を代表する署名や寄付金の名義人」（55.2%）でした。

女性が担当した方がよいと思う項目（「女性」及び「どちらかといえば女性」の合計）では、「葬祭の会合でお茶や料理などの準備をする人」（48.2%）が最も高くなりました。

「問 12」の理想（どちらが担当した方がよいと思うか）は、いずれの項目も「男女同じくらい」が、「問 11」の現実（どちらが担当することが多いか）よりも高くなり、特に「PTA 会合への出席者」は、現実 14.6%、理想 59.0%と乖離がみられました。

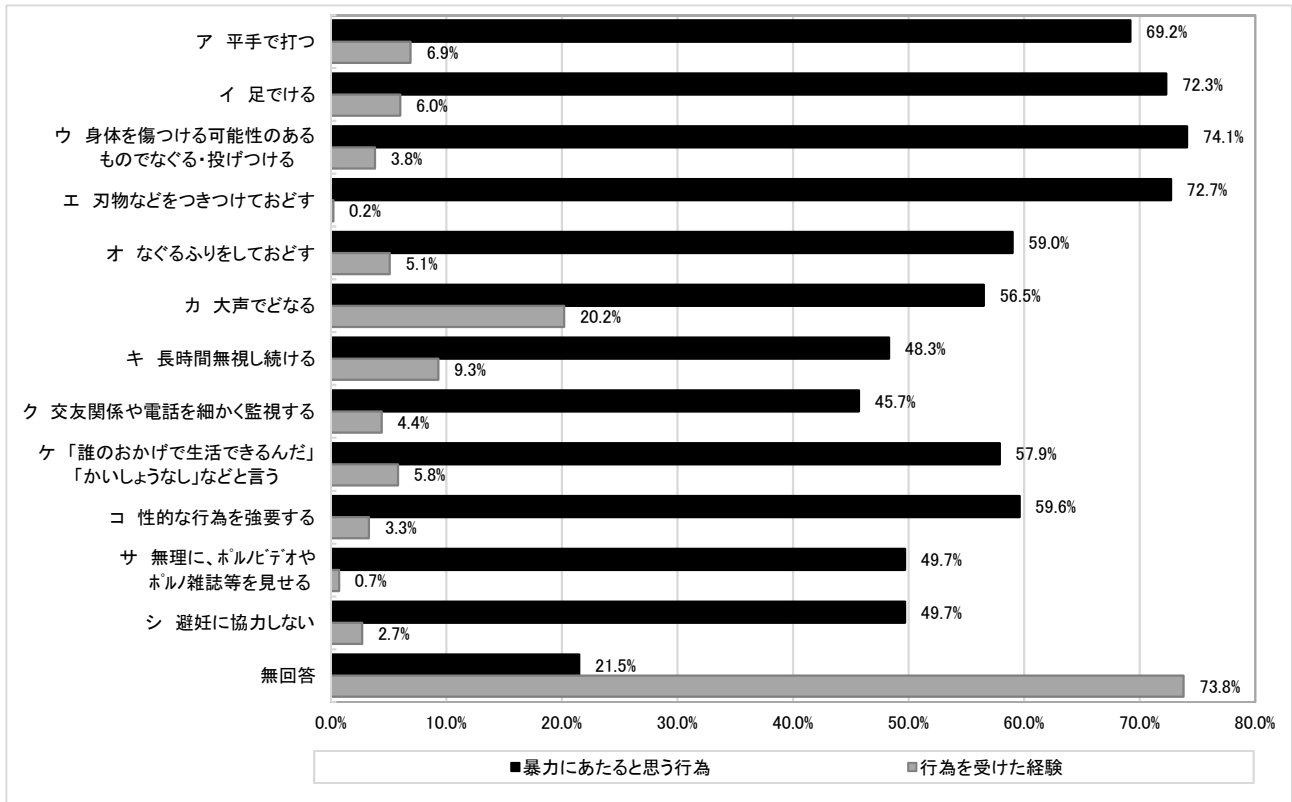


男女の人権についてお聞きします。

問 13 あなたは、配偶者や恋人から次のようなことをされた場合、暴力に当たると思いますか？また、これまでに、配偶者や恋人から次のようなことをされたことがありますか？

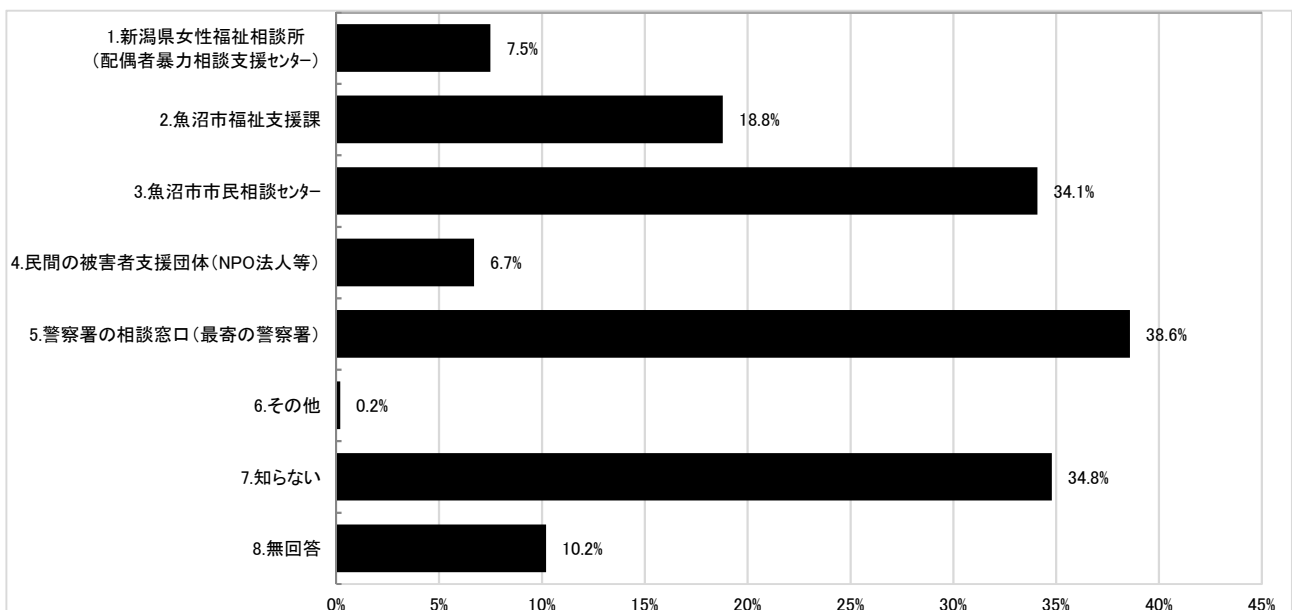
暴力に当たると思う行為については、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる・投げつける」(74.1%)が最も高く、次いで「刃物などをつきつけておどす」(72.7%)となり、身体的な項目が上位を占めました。

行為を受けた経験(無回答除く)については、「大声でどなる」(20.2%)が最も高く、次いで「長時間無視し続ける」(9.3%)でした。



問 14 あなたは、配偶者や恋人からの暴力に関する相談窓口のうち、どの窓口を知っていますか？

「警察署の相談窓口」(38.6%)が最も高く、次いで「知らない」(34.8%)、「魚沼市市民相談センター」(34.1%)でした。

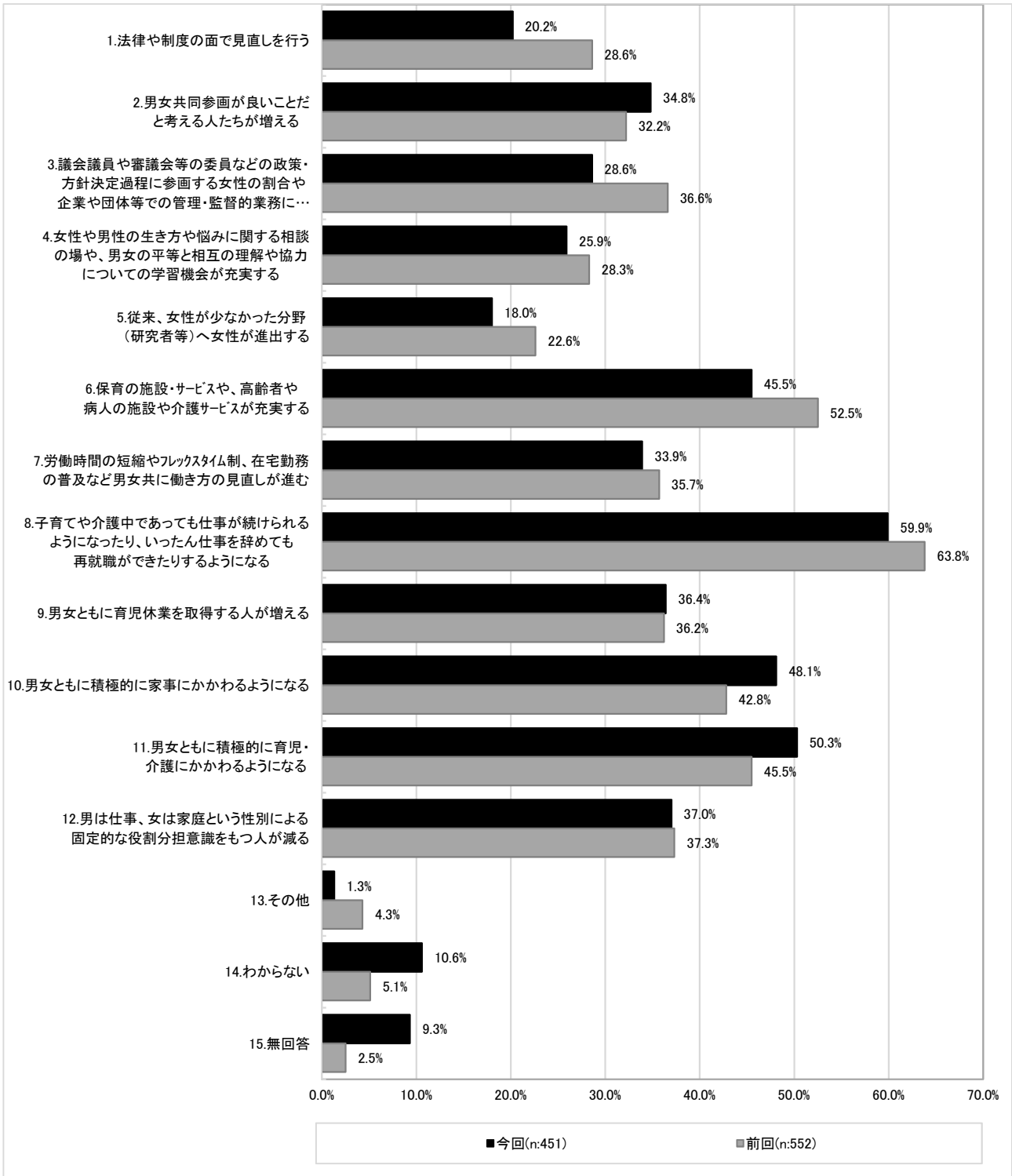


目指す社会の実現についてお聞きします。

問15 すべての男女がお互いにその人権を認め、責任を分かち合い、自分自身の個性と能力を發揮できる、「男女ともに支え合うまちづくり」を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか？

目指す社会の実現には、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるようになったり、いったん仕事を辞めても再就職ができたりするようになる」(59.9%)が最も高く、次いで「男女ともに積極的に育児・介護にかかわるようになる」(50.3%)でした。

前回調査と比較すると、「男女共同参画が良いことだと考える人たちが増える」(2.6ポイント)、「男女ともに育児休業を取得する人が増える」(0.2ポイント)、「男女ともに積極的に家事にかかわるようになる」(5.3ポイント)、「男女ともに積極的に育児・介護にかかわるようになる」(4.8ポイント)が増加しました。



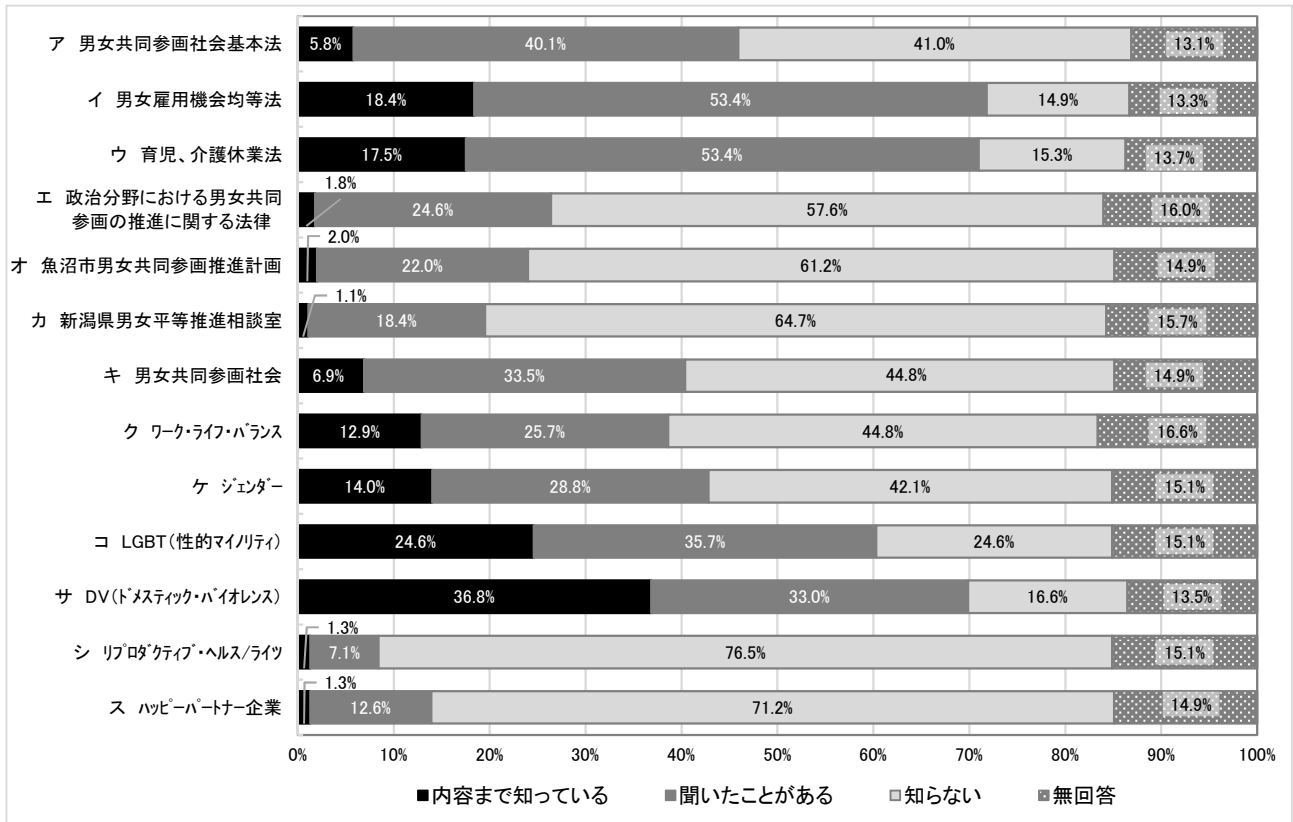
法制度等についてお聞きします。

問16 あなたは、男女共同参画に関する法律や用語について、知っていますか？

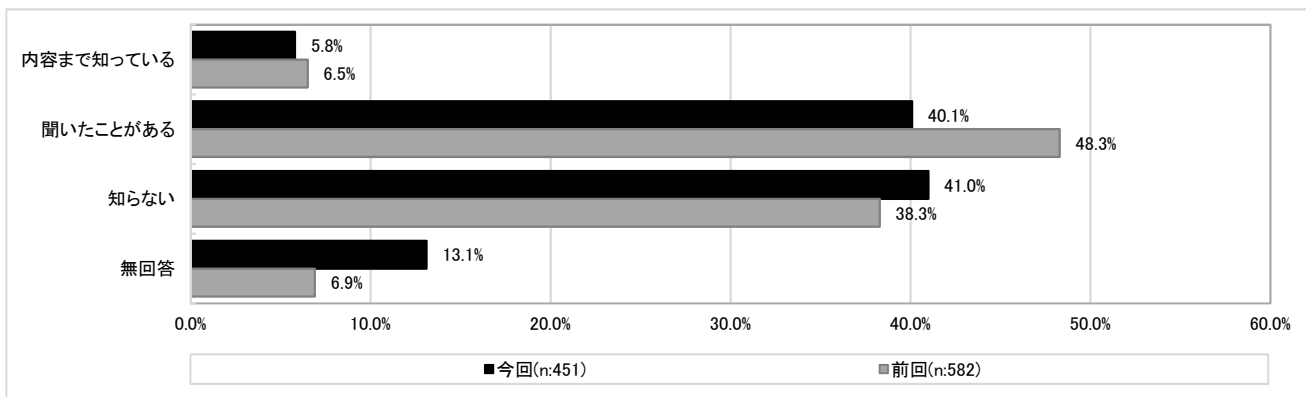
「内容まで知っている」及び「聞いたことがある」の合計では、「男女雇用機会均等法」(71.8%)が最も高く、次いで「育児、介護休業法」(70.9%)でした。

「知らない」では、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(76.5%)が最も高く、次いで「ハッピーパートナー企業」(71.2%)でした。

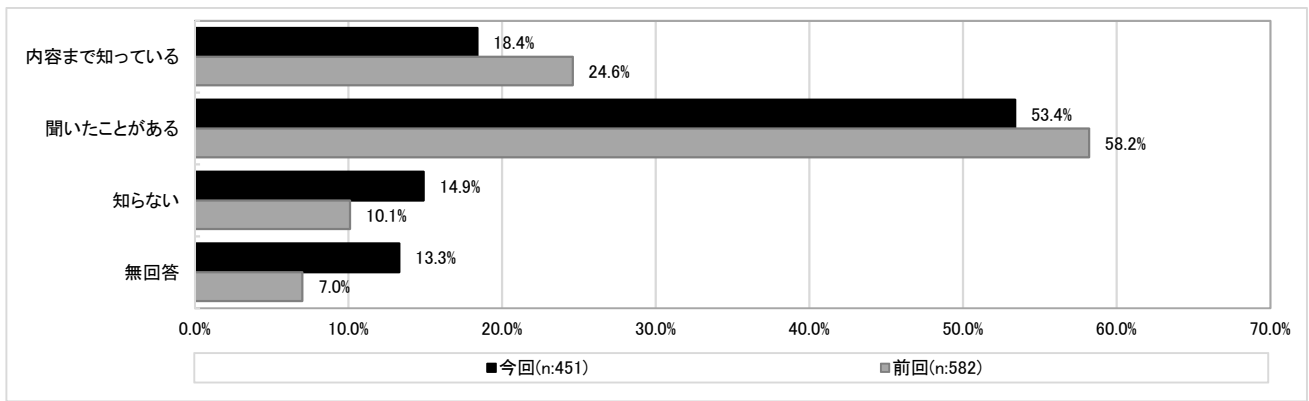
前回調査と比較すると、「内容まで知っている」及び「聞いたことがある」の合計では、「新潟県男女平等推進相談室」(3.5ポイント)、「男女共同参画社会」(0.7ポイント)、「ワーク・ライフ・バランス」(6.8ポイント)、「ジェンダー」(16.3ポイント)は増加しましたが、それ以外の項目は減少しました。



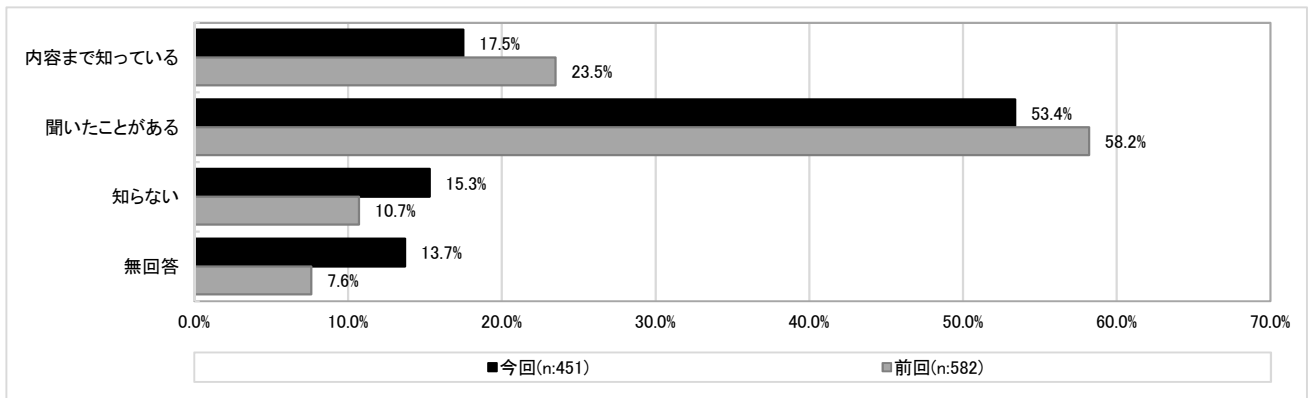
ア 男女共同参画社会基本法



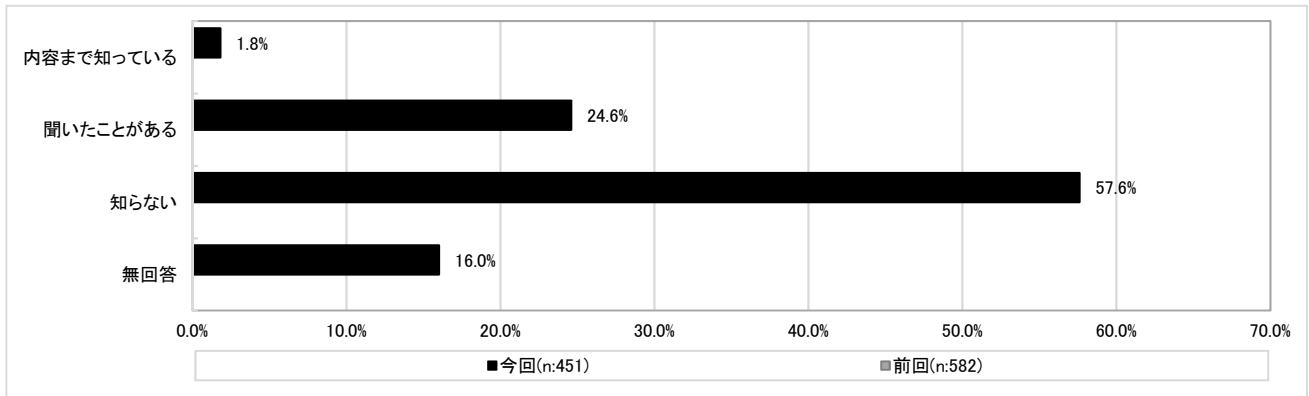
イ 男女雇用機会均等法



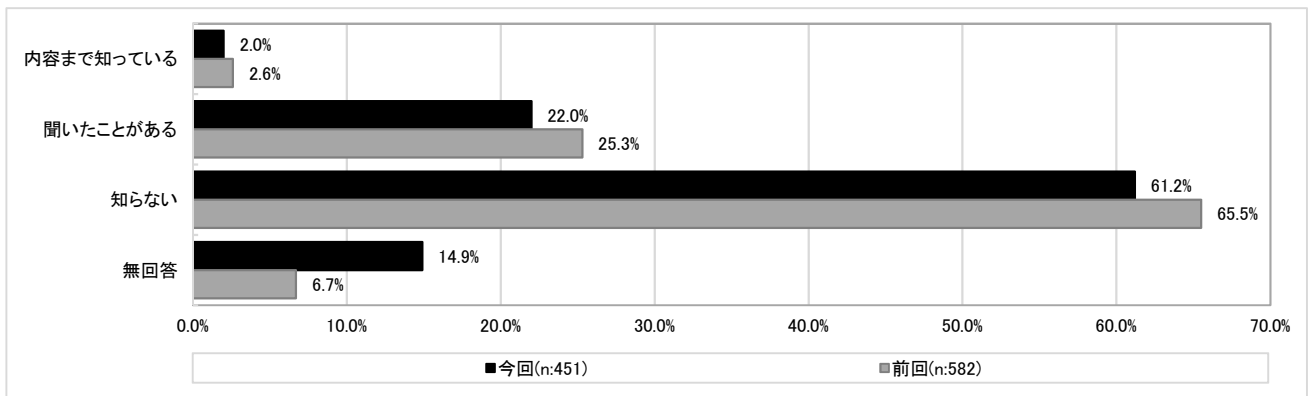
ウ 育児、介護休業法



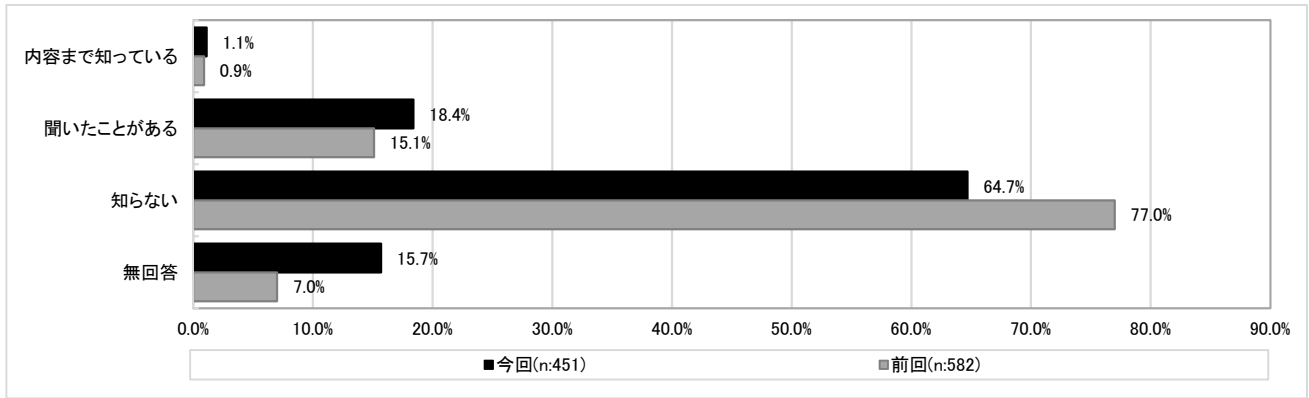
エ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律【新】



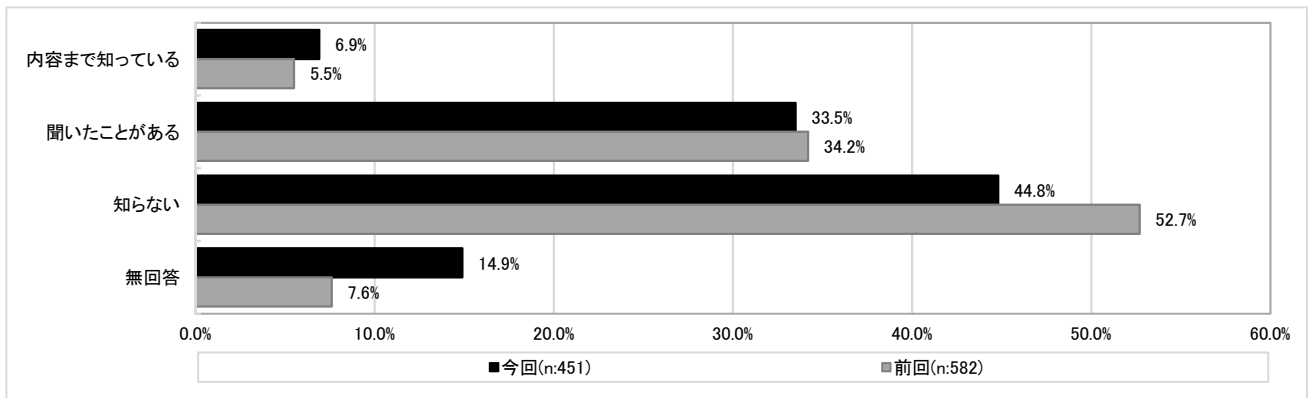
オ 魚沼市男女共同参画推進計画



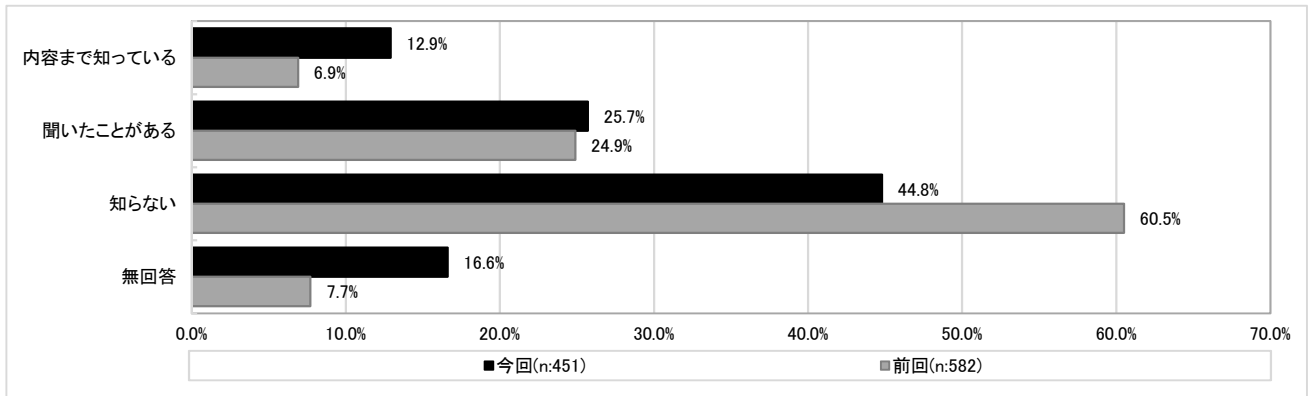
カ 新潟県男女平等推進相談室



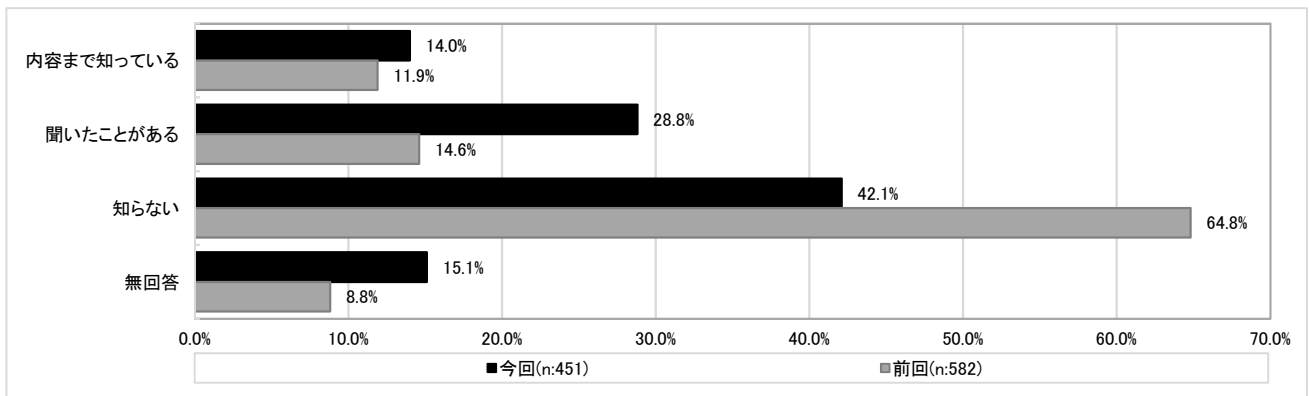
キ 男女共同参画社会



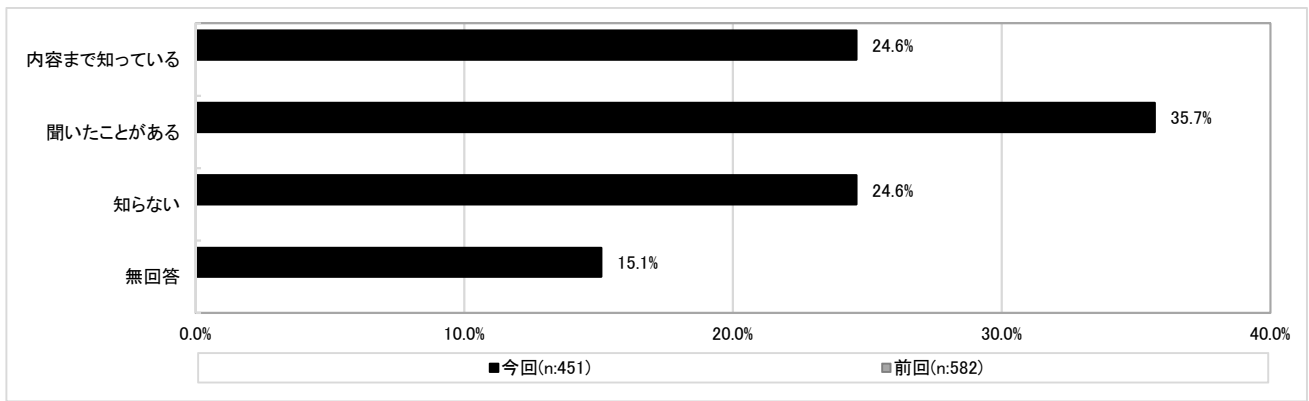
ク ワーク・ライフ・バランス



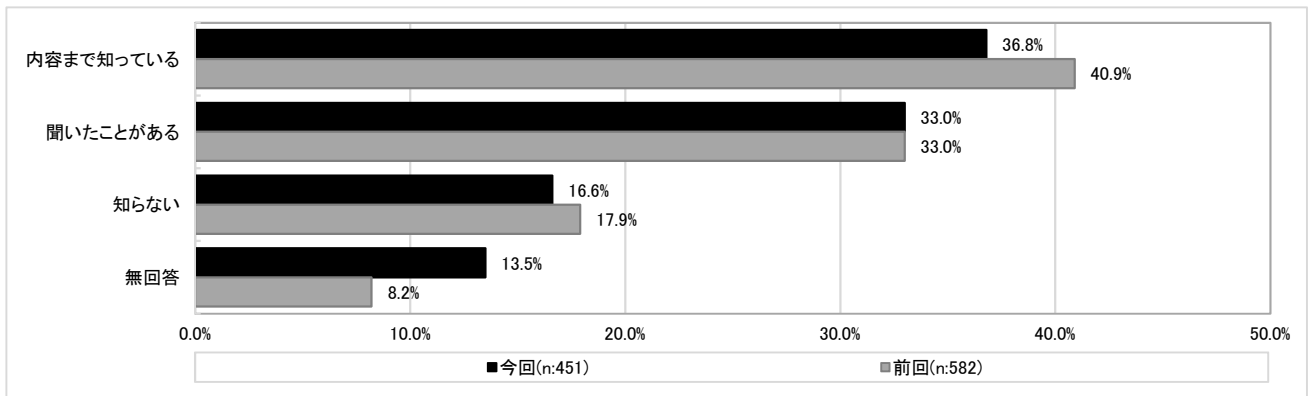
ケ ジェンダー



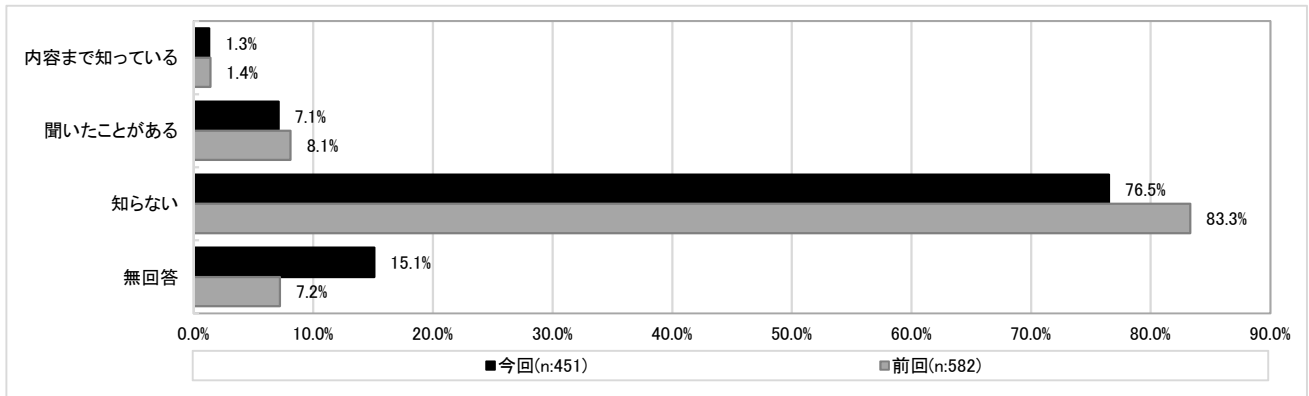
コ LGBT（性的マイノリティ）【新】



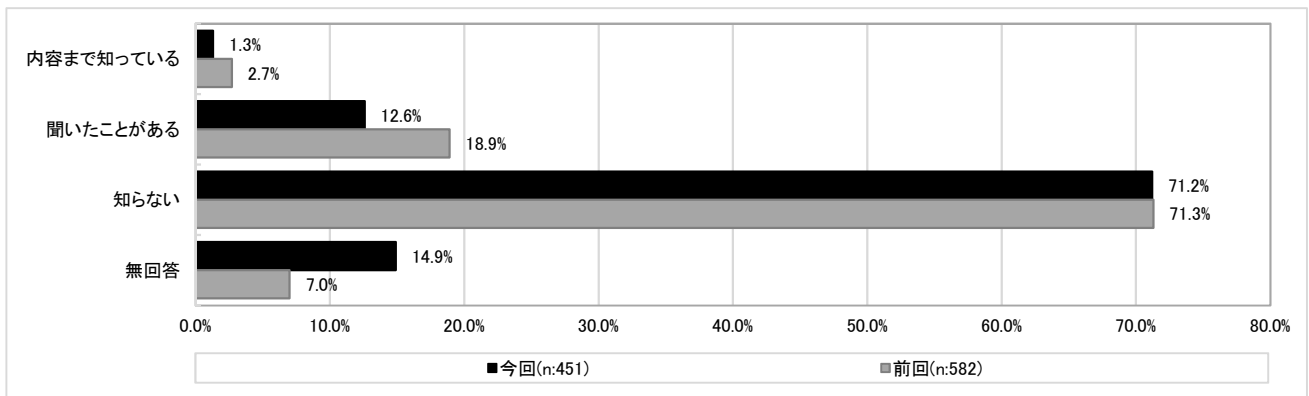
サ DV（ドメスティック・バイオレンス）



シ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



ス ハッピーパートナー企業

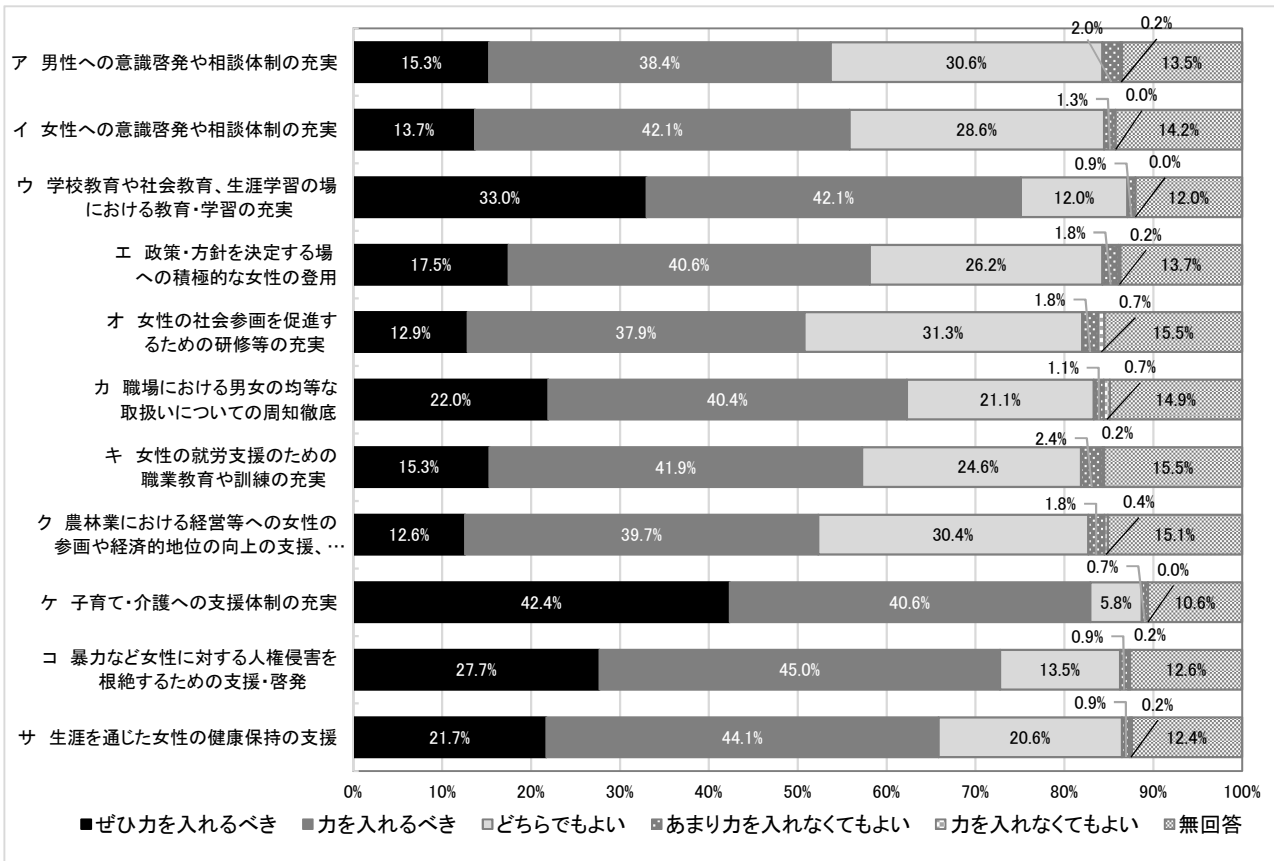


男女平等社会づくりに向けた市の取組について

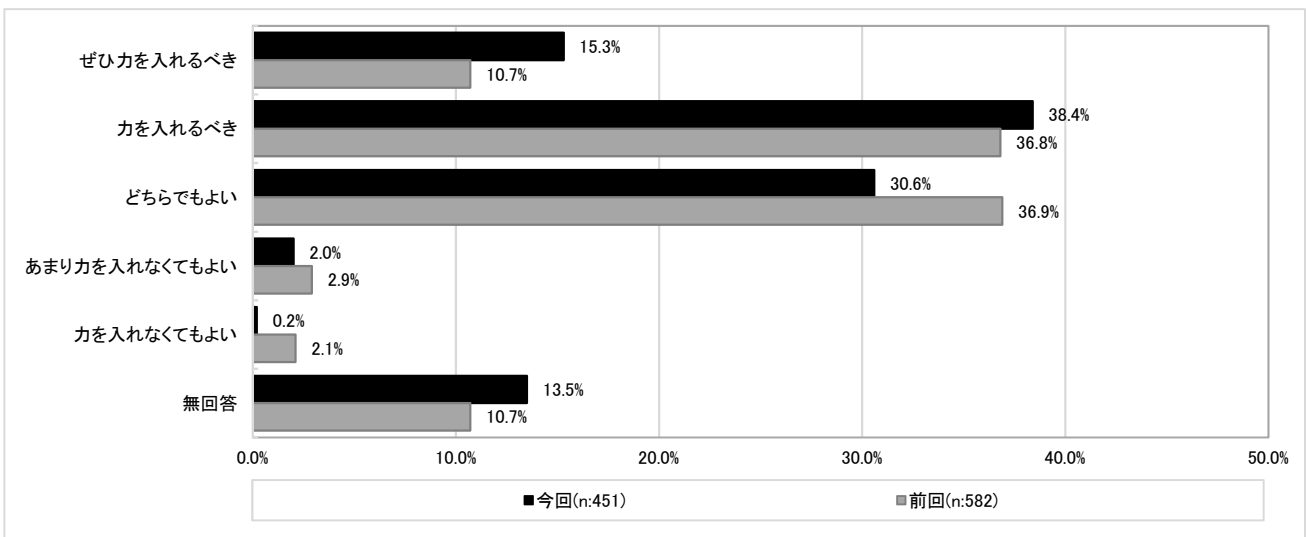
問17 あなたは、男女平等の社会づくりに向けて、今後市がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか？

「ぜひ力を入れるべき」及び「力を入れるべき」の合計では、「子育て・介護への支援体制の充実」(83.0%)が最も高く、次いで「学校教育や社会教育、生涯学習の場における教育・学習の充実」(75.1%)、「暴力など女性に対する人権侵害を根絶するための支援・啓発」(72.7%)でした。

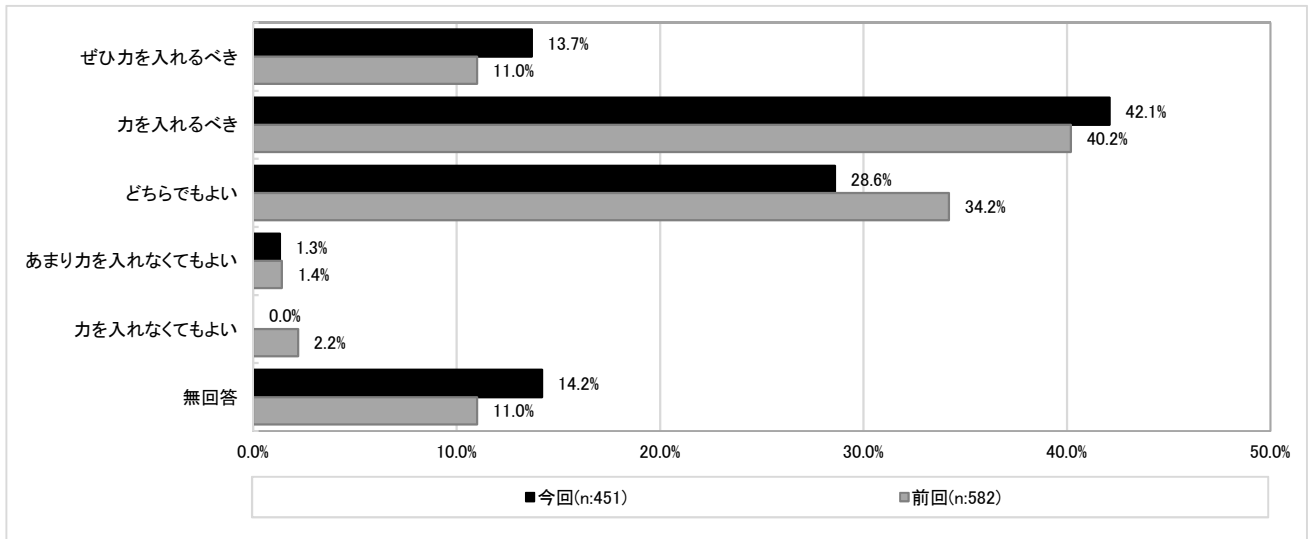
前回調査と比較すると、「ぜひ力を入れるべき」及び「力を入れるべき」の合計では、「女性の就労支援のための職業教育や訓練の充実」、「暴力など女性に対する人権侵害を根絶するための支援・啓発」は減少しましたが、それ以外の項目では増加しました。



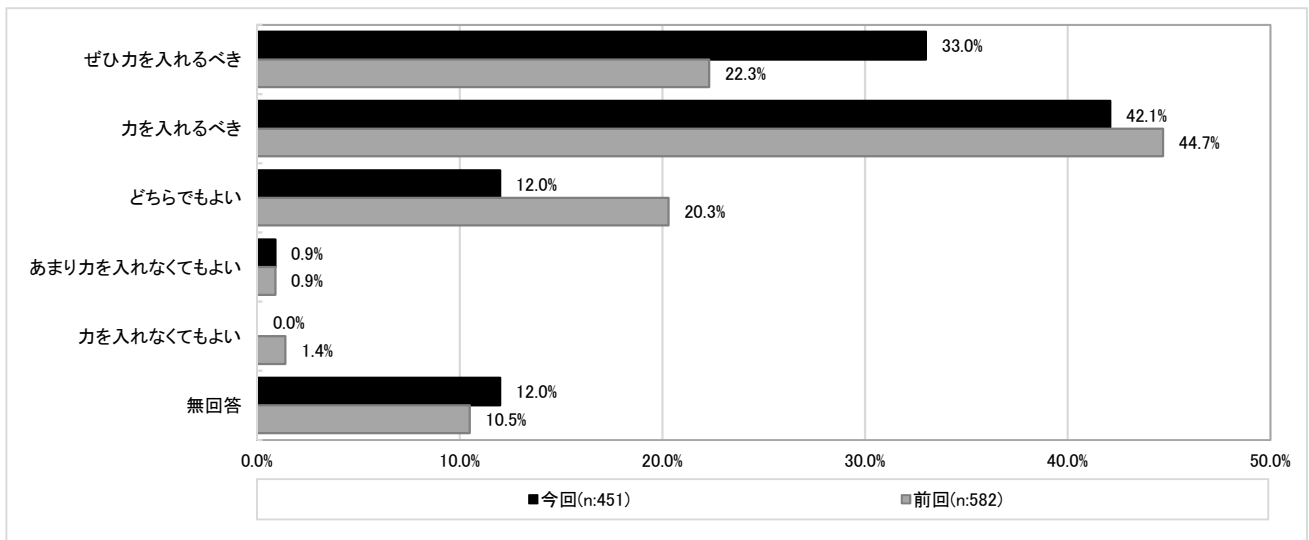
ア 男性への意識啓発や相談体制の充実



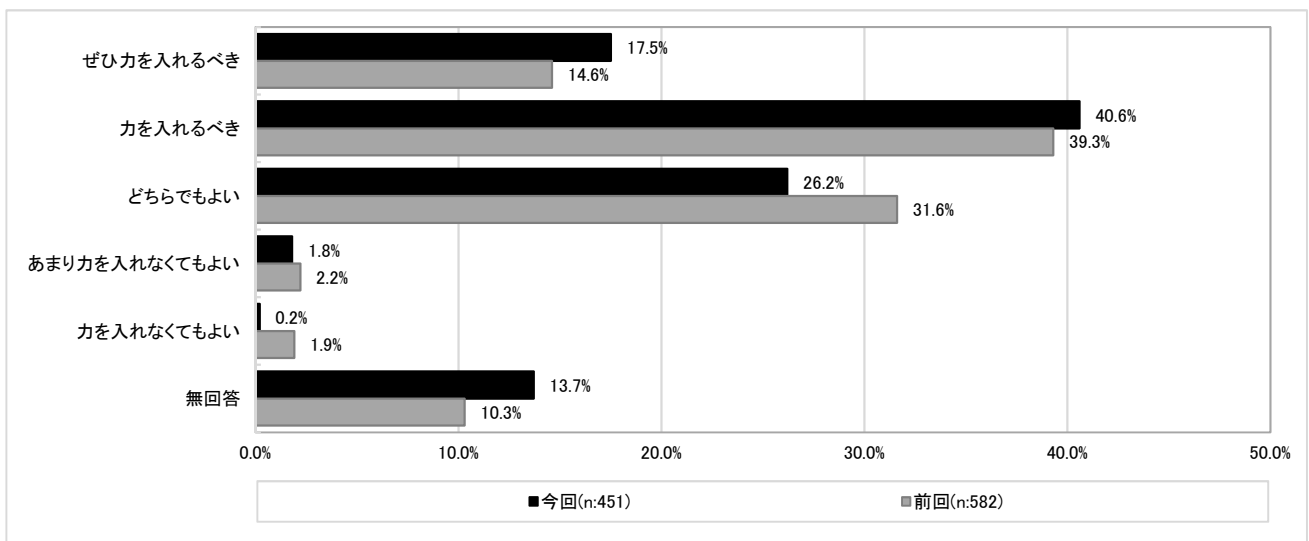
イ 女性への意識啓発や相談体制の充実



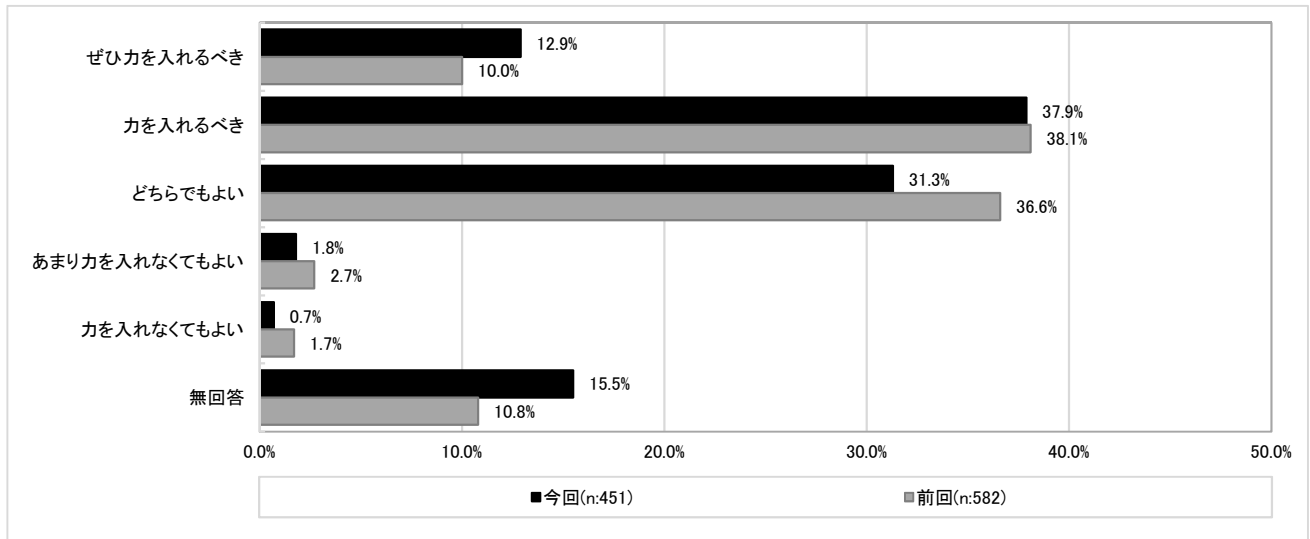
ウ 学校教育や社会教育、生涯学習の場における教育・学習の充実



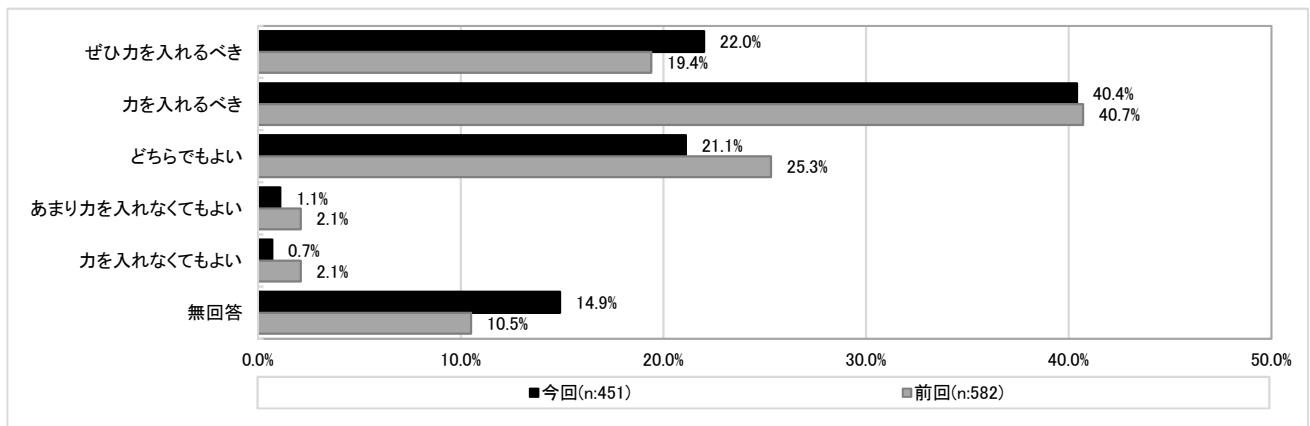
エ 政策・方針を決定する場への積極的な女性の登用



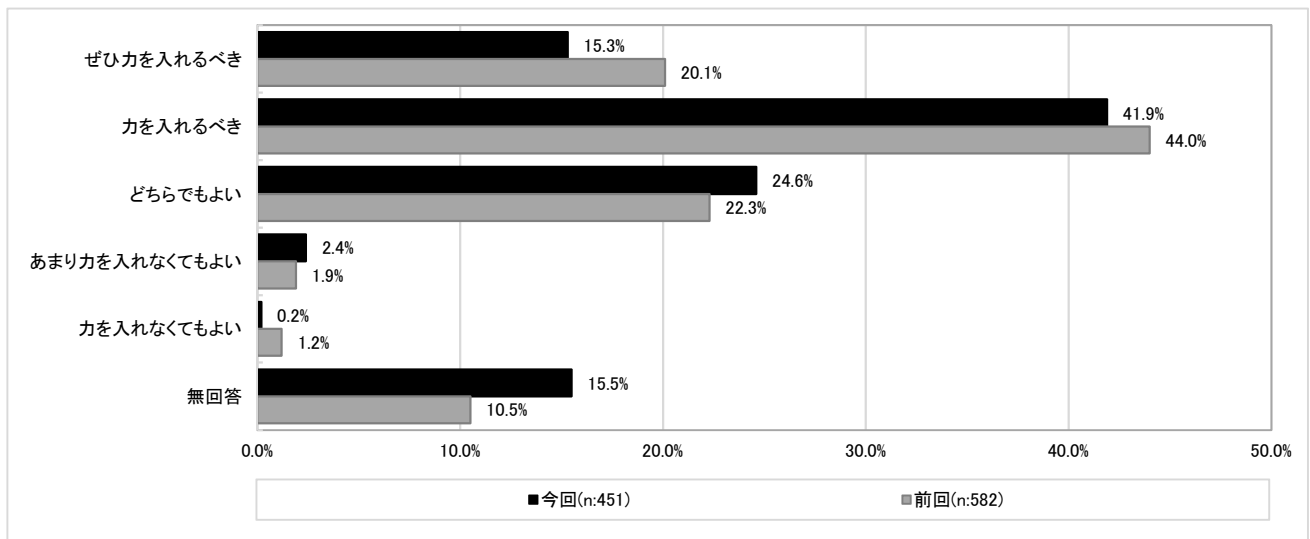
オ 女性の社会参画を促進するための研修等の充実



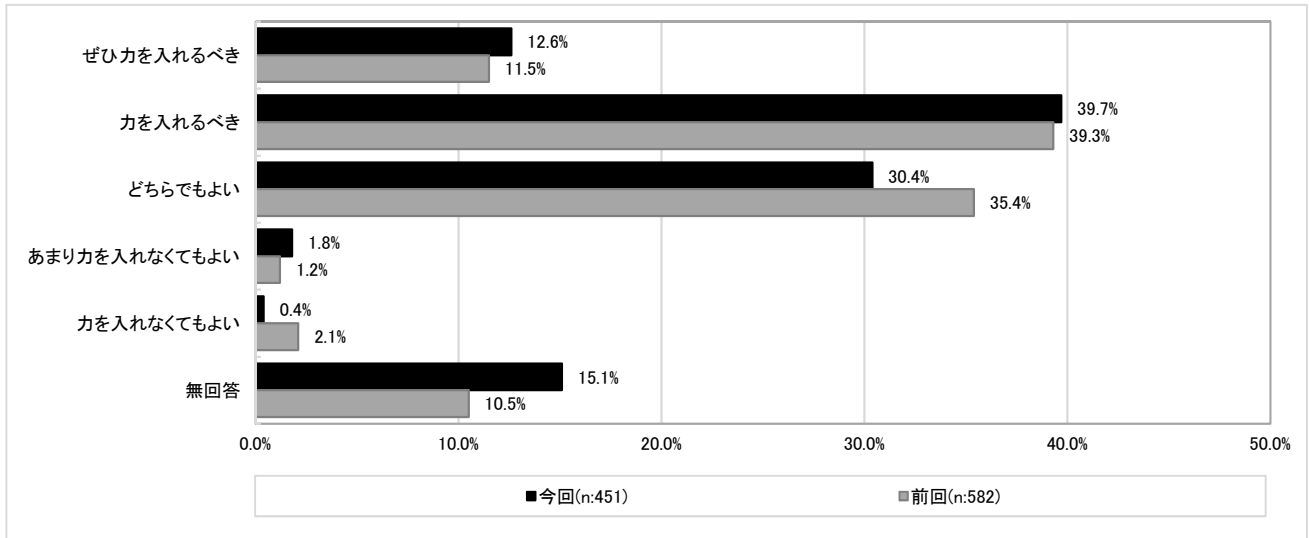
カ 職場における男女の均等な取扱いについての周知徹底



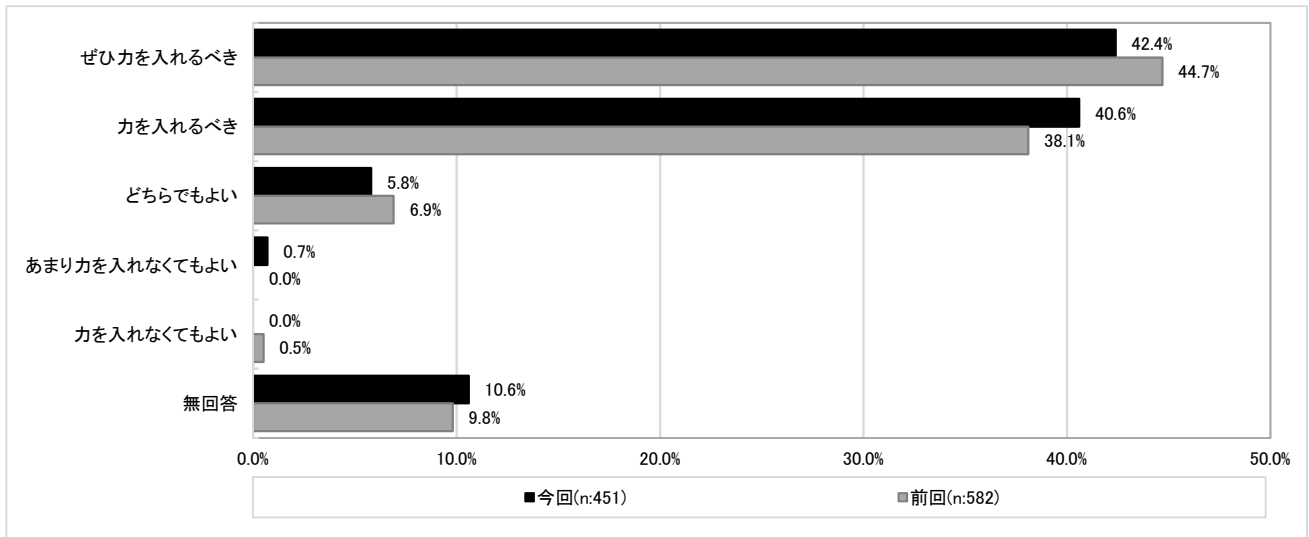
キ 女性の就労支援のための職業教育や訓練の充実



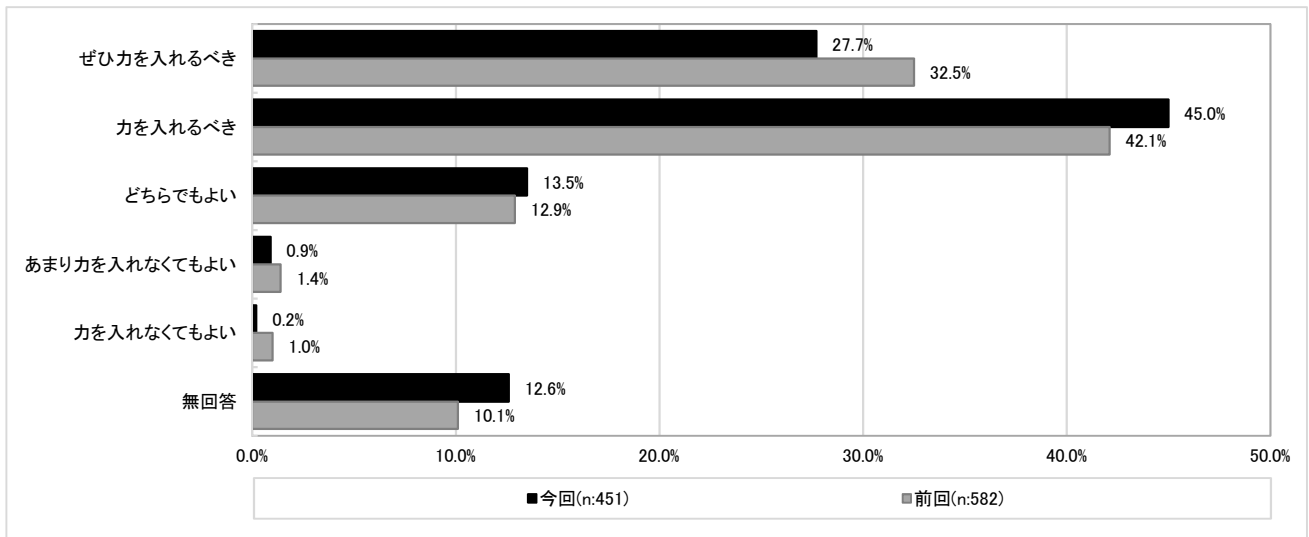
ク 農林業における経営等への女性の参画や経済的地位の向上の支援、商工業等自営業に携わる女性の能力発揮のための支援



ケ 子育て・介護への支援体制の充実



コ 暴力など女性に対する人権侵害を根絶するための支援・啓発



サ 生涯を通じた女性の健康保持の支援

